三重県埋蔵文化財調査報告書　206

観音沖遺跡発掘調査報告

－三　重　県　鈴　鹿　郡　関　町　新　所　町－

２０００・３

三重県埋蔵文化財センター

序

関町は鈴鹿山脈の東麓に位置し、東海道が東西に横切り古くから交通の要所として栄えた所です。そして町南部を流れる鈴鹿川の形成した段丘上は数々の重要な遺跡が点在しています。

そうした郷土の歴史的遺産は大切に保護し、後世に伝えるとともに文化発展の基礎として活用をしていかなくてはなりません。また一方では地域住民の生活の向上、あるいは地域経済発展のために、様々な公共事業が行われています。

三重県埋蔵文化財センターでは、文化財行政の一環として事業予定地内の埋蔵文化財の確認とその保護に努めているところですが、現状保存が困難な箇所においては発掘調査を行い、記録による保存を行っております。

今回報告いたします観音沖遺跡は、関町新所町において畜産経営環境整備事業の工事中に発見されたもので、関町教育委員会から古代の布目瓦が多量に出土したとの報告を受けた当センターが、地元の皆様のご理解とご協力のもとに発掘調査を実施させていただくことになったものであります。

既に工事に着手しておりながら、発掘調査に対する多大なご理解・ご協力をいただきました地元自治会の皆様、関町教育委員会の方々に心より感謝申し上げます。

平成１２年３月

三重県埋蔵文化財センター

所長　大井　與生

例　　言

1　本書は、三重県鈴鹿郡関町新所町に所在する、観音沖(かんのんおき)遺跡の発掘調査結果をまとめたものである。

2　調査の体制は以下のとおりである。

調査主体　三重県教育委員会

調査担当　三重県埋蔵文化財センター

技師　大川　操

技師　萩原　義彦

土工部門担当　㈶三重県農業開発公社

調査期間　平成11年 4月25日～平成11年 6月25日

3　本書の執筆・編集は大川　操、遺物の写真撮影を萩原義彦が行った。

4　発掘調査後の遺物整理は、上記担当者のほか、資料普及グループ職員が補助した。

5　本書で挿図に示す方位は、すべて座標北を用いた。磁針方位は西偏6°50′（平成10年）、真北方位は0°18′である。

6　本文で用いた遺構表示略記号は、下記のとおりである。

ＳＫ：土坑（瓦溜まり）　Pit：柱穴、小穴

7　写真図版の遺物番号は、実測図の番号と対応させてある。

8　本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

9　本調査は、三重県教育委員会が、平成11年度畜産経営環境整備事業に伴って実施したものである。
また、その調査費用は、一部を国庫補助金を受け三重県教育委員会が、他を三重県農林水産商工部が負担した。

10　調査にあたっては、三重県農林水産商工部農芸畜産振興課、北勢県民局農林商工部、関町教育委員会、および地元の方々に協力いただきました。記して謝意を表します。

11　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本　文　目　次

Ⅰ　前　　言 …… (1)
　1　調査に至る経緯 …… (1)
　2　調査の経過 …… (1)
　3　調査の方法 …… (2)
Ⅱ　位置と歴史的環境 …… (3)
　1　遺跡の位置 …… (3)
　2　歴史的環境 …… (3)
Ⅲ　基本的層序と遺構 …… (3)
　1　層　序 …… (3)
　2　遺　構 …… (3)
Ⅳ　遺　　物 …… (6)
　1　ＳＫ02出土瓦 …… (6)
　2　ＳＫ03出土瓦 …… (8)
　3　道具瓦 …… (16)
　4　近世瓦 …… (16)
Ⅴ　結　　語 …… (16)
　1　遺跡の性格について …… (16)
　2　瓦の供給先 …… (18)
　3　出土瓦の時期 …… (18)
　4　丸瓦の当布について …… (18)
　5　隅切瓦から推定される屋根形態 …… (18)

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図(1:50,000) …… (2)
第２図　調査区位置図(1:2,000) …… (4)
第３図　遺構実測図・土層断面図(1:200) …… (5)
第４図　丸・平瓦地区別出土瓦数量 …… (7)
第５図　ＳＫ02出土丸瓦実測図・拓影(1:6) …… (9)
第６図　ＳＫ02出土軒平瓦・平瓦実測図・拓影(1:6) …… (10)
第７図　ＳＫ03出土丸瓦実測図・拓影(1:6) …… (11)
第８図　ＳＫ03出土丸瓦実測図・拓影(1:6) …… (12)
第９図　ＳＫ03出土平瓦実測図・拓影(1:6) …… (13)
第10図　ＳＫ03出土平瓦実測図・拓影(1:6) …… (14)
第11図　ＳＫ03出土隅切瓦実測図・拓影(1:6) …… (15)
第12図　ＳＫ03出土隅切瓦・近世瓦実測図・拓影(1:6) …… (17)
第13図　丸瓦凹面当布拓影(1:4) …… (19)

表　目　次

第１表　丸・平瓦地区別数量表 …… (7)
第２表　ＳＫ01近世・現代瓦 ：布目瓦重量比 …… (20)
第３表　出土遺物観察表 …… (21～31)

図　版　目　次

ＰＬ１　上：　調査区全景　　下：　ＳＫ02・ＳＫ03瓦溜まり検出状況 …… (34)
ＰＬ２　出土遺物（１） …… (35)
ＰＬ３　出土遺物（２） …… (36)
ＰＬ４　出土遺物（３） …… (37)

Ⅰ　前　言

1　調査に至る経緯

平成10年度畜産経営環境整備事業に伴う観音沖地区のほ場整備工事は年度末完成の予定で工事が進められてきていた。

こうしたなかで、当工事区域の北西隅において、布目瓦が多く工事現場から出土しているという連絡が平成11年１月11日三重県埋蔵文化財センターに入った。早速工事の一時停止を北勢県民局農林商工部に申し入れ、１月12日にわたって現地協議を行い、範囲確認をした結果、400㎡の範囲に瓦の散布がみられることを確認した。

本遺跡の取り扱いについて、２月29日に地元自治会と協議を行い、遺物の散布が見られる400㎡について本調査を翌年度早期に実施することにし、工事を調査終了後まで延期することで理解を得た。

調査は、遺跡面積約9,600㎡のうちの当該事業で削平される約400㎡を対象とした。調査期間は、平成11年４月25日から６月25日までである。

2　調査の経過

(1)　調査経過概要

調査区は、標高約93.9mの水田で、周囲は工事のためすでに1.3m程削平されていた。工事途中、重機掘削を入れた時に多量に出土した布目瓦が山積みしてあり、その断面には僅かに焼土や炭がみられた。まずは調査区内の山積みの瓦の収拾から開始し、部分的に残る水田の床土を重機で除去した後、人力により遺構の検出、掘削を行っていった。

作業に参加していただいたのは、関町新所町、中町、木崎町、亀山市布気町在住の方々である。お名前を記して感謝いたします。

伊藤多知夫、岩田治、上田日出和、上村光弘、
北澤俊治、田中晴生、戸板　訓、中谷秋雄、
中野文治、中野光雄、服部和雄、西口利夫、
福島俊一、水谷竹士、森田富三、山田三男、
赤塚美加、落合富子、川島雅美、佐野安子、
曽我美智子、戸板久子、富田さとみ、西村やす子、
服部政子、細川美也子、水谷敏子、山木幸代、
酒井巳紀子、北角光津子

(2)　調査作業日誌（抄）

1999年

4月26日　地区杭設定。工事時出土瓦の採集開始。現場での瓦洗浄開始。

4月28日　人力による表土掘削開始。

5月 7日　遺構検出中、E4～G4のSK03最上層にあたる瓦溜まりを確認。重機により撹乱部分の掘削を開始。

5月12日　SK03をB3～G4にかけて検出。

5月13日　A5～D5にかけてSK02の上層を検出。

5月14日　SK02・SK03瓦出土状況を写真撮影。

5月17日　SK02・SK03の上層瓦を取上げ開始。

5月20日　近世～現代瓦の集中をSK01として確認。掘削開始。SK02・SK03の下層瓦を検出し始める。

5月24日　SK01を近世以降の瓦と布目瓦に選別。重量計測のみ実施。

5月28日　軒平瓦が出土(SK02)。

6月 2日　SK02・SK03の下層を検出、写真撮影。八賀晋先生現場視察。

6月 3日　SK02取り上げ開始。

6月 4日　SK03取り上げ開始。

6月10日　写真のための清掃。作業員作業終了。

6月11日　全景写真撮影。GPS測量開始。平面実測のためのふりこみ開始。

6月14日　平面実測開始。平面実測・レベル入終了。

6月16日　調査区西壁を取り崩して瓦の取り上げ。地山を砂礫層まで掘削して下層遺構の確認・土層観察。

6月20日　地元住民対象に、観音沖遺跡の調査概要の説明会を開催。

(3) **文化財保護法等にかかる諸通知**

文化財保護法（以下、「法」）等にかかる諸通知は、以下により行っている。

・法第57条の３第１項（文化庁長官あて）

平成11年４月27日付け、農蓄第196号（県知事通知）

・法第98条の２第１項（文化庁長官あて）

平成11年７月１日付け、教生第536号(県教育長通知)

・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知(松阪警察署長あて)

平成11年７月９日付け、教生第4－15号(県教育長通知)

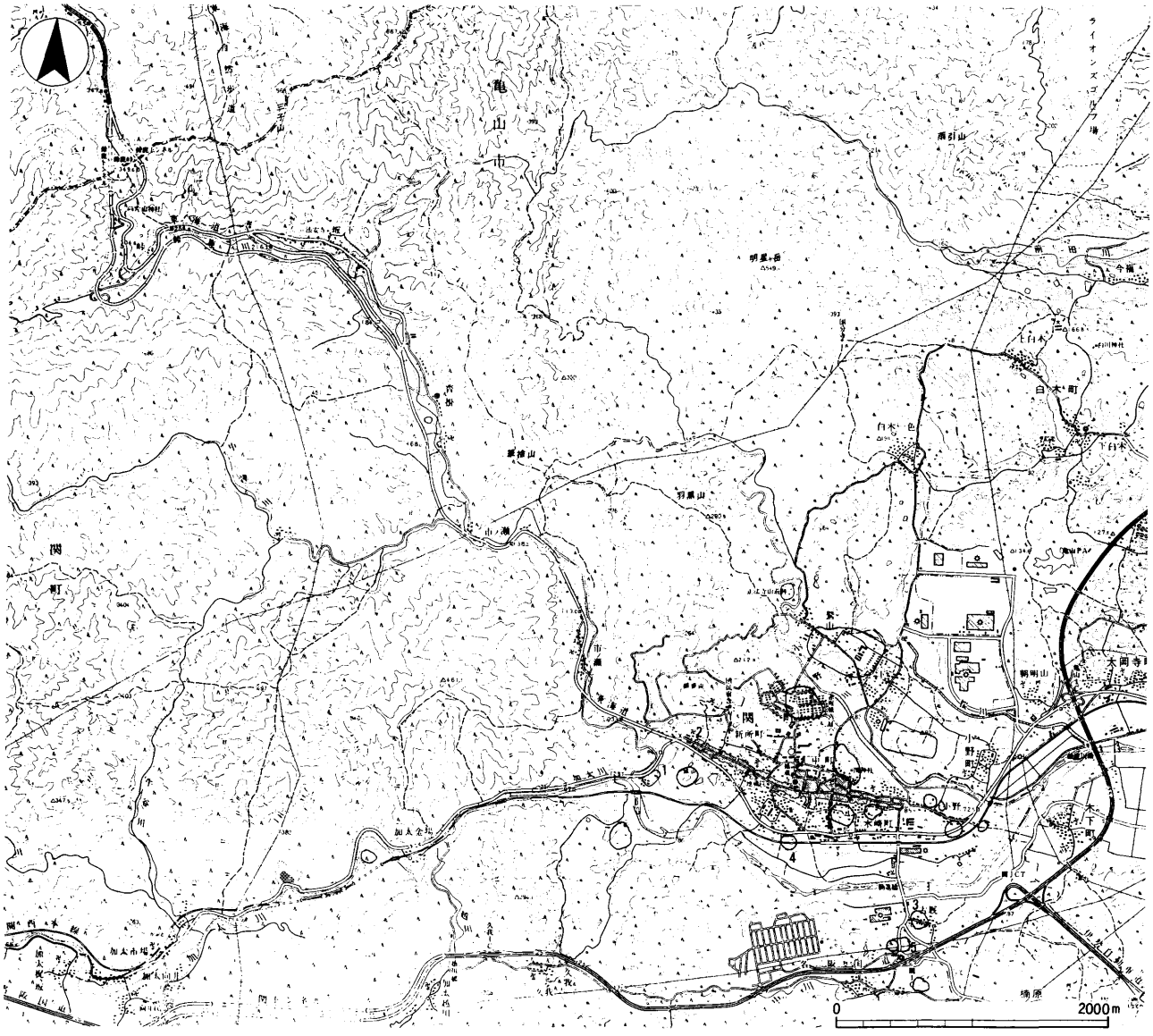
3　調査の方法

(1) **地区設定について**

調査地区の設定は、現道を基準軸として３ｍ四方の升目で区切り、南北にアルファベットでＡ～Ｈ、東西に数字を１～９とつけ、枡目北西隅の交点を地区名とした。なお、この方眼は国土座標とは無関係に設定をしたものである。

(2) **遺構図面について**

調査区の平面図及び土層断面図は、縮尺1/20で手書きした。



第１図　遺跡位置図（1:50,000）国土地理院発行1:25,000「亀山・鈴鹿峠より」

II　位置と歴史的環境

1　遺跡の位置

観音沖遺跡(1)は、三重県鈴鹿郡関町新所町字観音沖に所在する。

古来から交通の要所である鈴鹿峠の東麓には、鈴鹿山脈を源とする鈴鹿川が大きく東へ蛇行しながら流れ出できており、その東流する鈴鹿川の両岸には河岸段丘を形成している。

この段丘上には多くの集落が所在し、特に近世東海道の宿場町であった街道筋には町並みの面影を良く残した家々が並ぶ。

2　歴史的環境

鈴鹿峠の東麓には、古代から近世にかけての遺跡が集中している。

古代には平安時代に開通した東海道阿須波道以前加太越えで大和地方へ向かう大和街道が古代東海道に繋がっていたと考えられている。古代三関の一つに数えられる鈴鹿関跡(2)は観音山・城山両山上に残る土塁跡から西内城、また関の中心施設が配置されているとする東内城から成ると推定されている[1]。鈴鹿関は789年には廃関されたが、その後も有事の際には関の閉鎖が行われており、畿内と東国との交通の要衝として、重要な位置を占めていた。

また右岸には古代の駅伝制に伴う関の駅部跡(3)、その南の丘陵上には奈良時代の瓦を焼いた切山瓦窯跡(5)が所在する。

現在の関宿内にみられる地蔵院も平安時代初期の建立と伝えられており、地蔵院南側の河岸段丘上には平安時代の塼仏の散布が見られる大日森遺跡(4)があるなど、仏教に関わる遺跡が多く所在する[2]。

中世では、切山瓦窯のある丘陵の西側には中世墓が確認されている[3]ほか、多くの集落跡および遺物の散布が各遺跡で確認されている。

近世に入ってからは、東海道の関宿を中心に街道沿いの町並みが今日までその様子を残すなど繁栄を見せ、東の追分からは伊勢へと向かう伊勢別街道が東へ延びる。

III　基本層序と遺構

1　層　序

調査区周辺は、城山の南西麓にあたり、南西へ向けて緩やかに傾斜するが、大きくは南側の鈴鹿川へ向けての下勾配をとる。

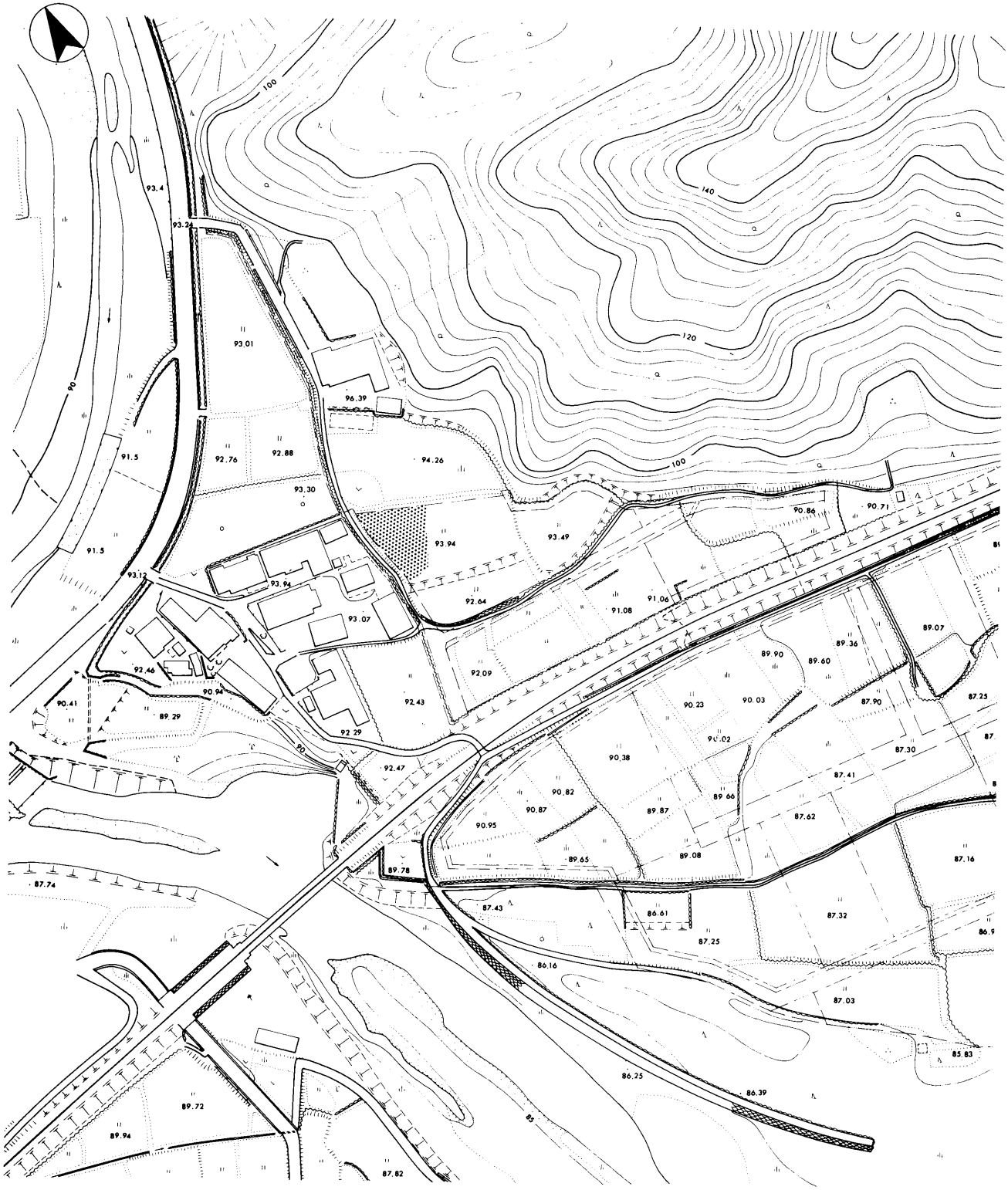
表土は一部分しか残存しておらず褐灰色土、その下に水田床土である黄褐色土がみられ、遺構はやや砂質の黄褐色土で検出を行い、地山である砂礫層まで達していた。

第１層：褐灰色土	表　土
第２層：褐色土	包含層Ｉ
第３層：黄褐砂質土	包含層II
第４層：黄褐砂礫土	地　山

2　遺　構

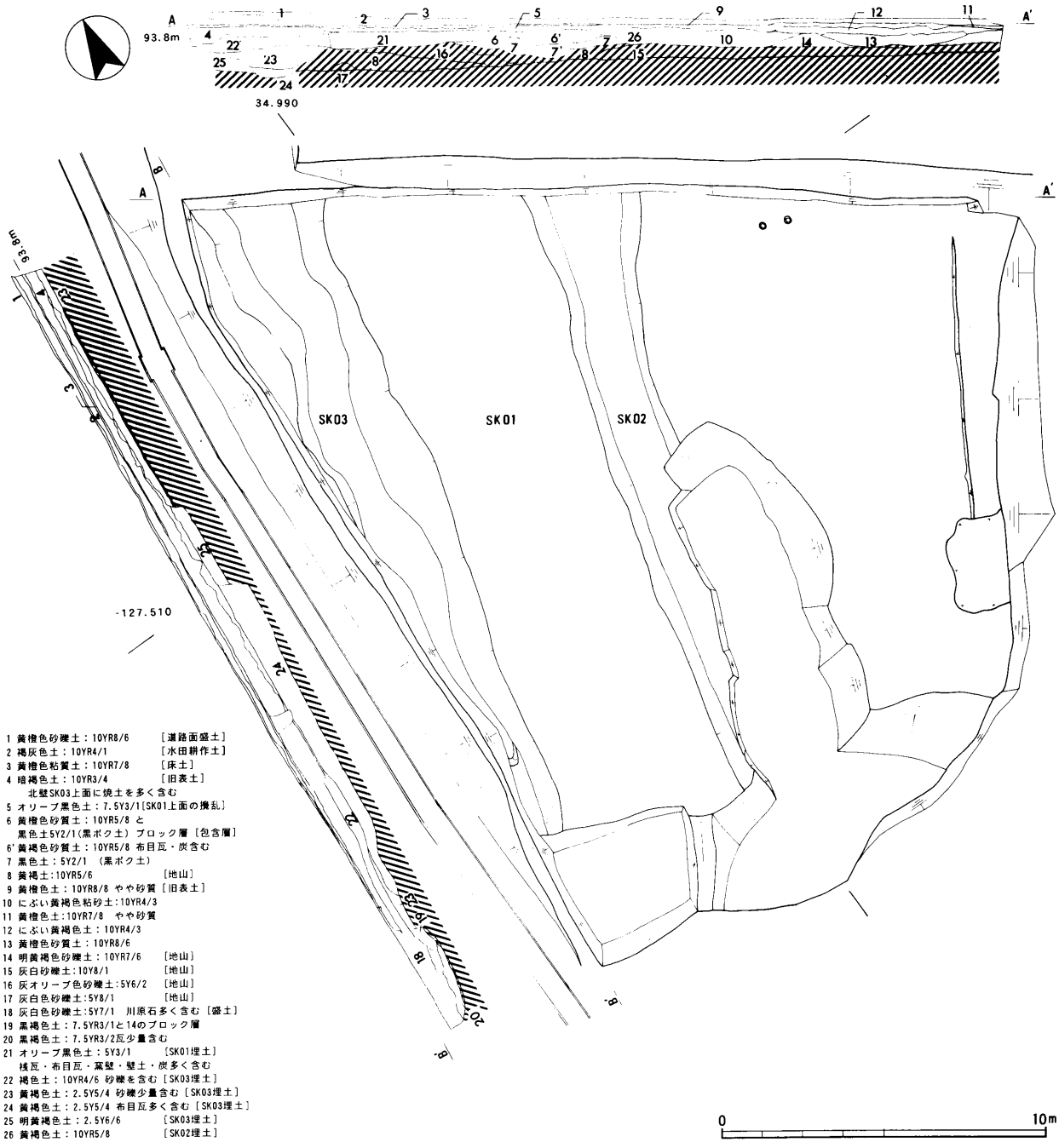
遺構としては、東西２箇所の溝状の凹みに堆積した奈良時代の瓦溜まりと、その東西２条の瓦溜まり間にみられた、近世から現代瓦までを含む新しい瓦溜まりを確認したほか、ピットが数個みられたのみである。

以下、遺構ごとに概述する。



第２図　調査区位置図（1:2,000）

0　100m



第３図　遺構実測図（1:200）土層断面図（1:200）

(1) 奈良時代の遺構

ＳＫ02　調査区中央にみられる南北に延びる浅い溝状の凹みに堆積した瓦溜まりである。幅約3.0m、深さ約0.2m、北端は標高93.1mで南下がりの勾配をもつ。南半は工事により撹乱を受けたために詳細な遺構の状況が不明確である。この瓦溜まりでは、北端付近で主に平瓦が、調査区中央から南半では丸瓦が多く出土した。丸瓦が溝の軸方向に直交するものはみられないといった程度の規則性しか観察されず、屋根に並べられた状況のものが転落した様な瓦組みの様子はみられなかった。

ＳＫ03　調査区西端で南北に延びるＳＫ02と同じく溝状の掘り込みの中に堆積した瓦溜まりである。溝の深さは北端で標高92.1mと検出面から約1.0mの深さをもち、上層の瓦溜まりから底面に達するまで約1.3mにわたって瓦が堆積したものである。調査区北端壁際からは窯壁とみられる火を受けた瓦粘土が確認された。この瓦溜まりではＳＫ02同様、瓦

組みと思われる出土状況ではないが、数枚の平瓦を重ねて溝の東側肩部から溝底へ投げ入れたと考えられる出土状況が数箇所で認められた。丸瓦についても数本まとめて投棄されており、数本単位で向きを揃えて完形の丸瓦が検出できた。また調査区北壁際の溝最下層から平瓦、調査区北1/3からは主に丸瓦、調査区南半からはそれぞれの瓦が混在する形で検出された。

今回検出したＳＫ02とＳＫ03とは座標北に近い方位をもつ平行する溝状の遺構であるが、ＳＫ02はＳＫ03ほどしっかりとした排水機能をうかがわせる凹みではなく、また溝間の平坦地に特に整地した痕跡がみられなかったこと、その直線延長が城山へあたる方向にあることから両側溝を伴う道路跡とは認めにくいものと判断した。

(2) 近世から現代の遺構

ＳＫ01　ＳＫ02とＳＫ03の間で水田床土直下から瓦の出土があったもので、ＳＫ02の西肩、ＳＫ03の東肩をそれぞれ切り込んでおり、出土量の約18％ほどの布目瓦を含んでいたが、大半の80％ほどが現代瓦および近世瓦、窯壁・壁土が２％を占めるものであった。地主の話によると、調査区に隣接する自宅の母屋の屋根を葺き替えた時に地主所有の最寄りの水田の低いところに嵩上げのため投棄したとのことであった。調査区南端にある下段丘面の嵩上げのために多量に投棄されていた。また調査区北壁付近からは特に窯壁・炭の出土が多くみられる。

Ⅳ　遺　物

出土した遺物はすべてといって過言でないほど瓦ばかりで、整理箱数でみると1,050箱の瓦類に対して土器・砥石等の石製品は２箱しか出土していない。

その瓦類も調査区西半の瓦溜まり２基から出土したもので、東半からは包含層遺物も非常に少ない。

瓦はその大きさ・形態・成形技法・調整技法・色調・胎土・焼成等の特徴を観察・検討し、丸瓦・平瓦はＡ・Ｂに、また各々を１～３類に分類した。道具瓦(隅切瓦)はＡ・Ｂ各々をａ～ｄに分類した。

以下、多量の瓦類の中から特徴的な丸瓦・平瓦と僅かにみられる道具瓦、軒平瓦について概述する。

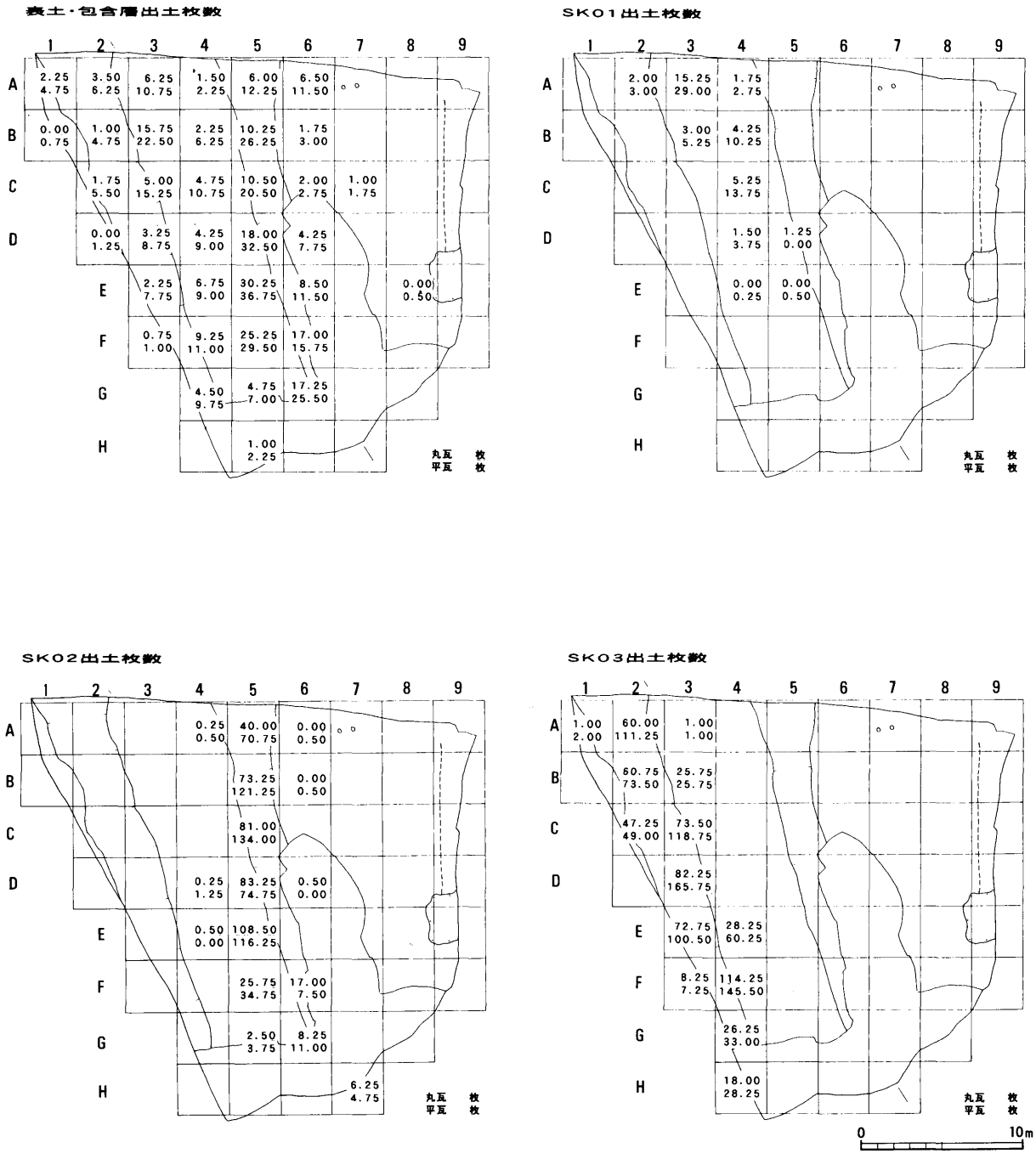
1　ＳＫ02出土瓦

丸瓦・平瓦・軒平瓦・道具瓦が出土した。軒平瓦は1,050箱中３点しかみられず、うち瓦当が残る唯一１点がＳＫ02から出土した。

(1) 丸瓦

ＳＫ02の丸瓦は隅総数計算法[4]で447枚分が出土した。そのうち48枚について観察・計測を行った。

丸瓦Ａ$_2$(1)　玉縁式丸瓦で、全長36.0cm前後、玉縁長4.5～5.0cm、筒部幅15.5cm、玉縁幅8.0～10.0cmである。筒部から玉縁まで一体で作り、筒部凸面に別粘土を貼付けて肩をつくる。筒部凸面には縄叩き目を残す調整の粗いものが55％を占め、叩き後ナデあるいは板ナデを施すものが45％である。叩き道具は全て縄目で格子叩きはみられない。肩部の粘土貼付け部のみ短軸方向(横方向)のナデをした後、長軸方向(縦方向)の板ナデおよびナデ調整するが、Ａ類の中には縦方向のナデ調整を行わず、横方向のナデのみで仕上げるものがみられる。玉縁部は横方向のナデで、Ｂ類の端部は未調整であるのに対してＡ類では筒端部同様円弧に沿ったケズリがみられ、調整する意識が感じられる。筒部の側面には全て分割截面と分割破面がみられ、筒部厚の1/2強のところへ分割截線を入れている。分割破面を調整する意識はＢ類共々全くなく、幅の大小はあるが、いずれも分割破面を残す。粘土分割法は第Ｉ種である[5]。凹面の布目の観察により、分割界線は全ての丸瓦において型板に突帯を付したものではなく、紐状の、粘土貼付けなどの作業中に歪みを生じるもので分割時の目安としたものと考えられる。Ａ類では比較的直線的に分割界線が入るが、Ｂ類では分割界線が確認される個体のうち32％が歪む。またＢ類で顕著にみられる玉縁部凹面の当布折返し（以下、折返し）がＡ類では極めて少ない。色調は灰色で胎土に細か



第4図　丸・平瓦地区別瓦数量（1:400）

	表土・包含層	SK01	SK02	SK03	計
丸瓦(枚)	242.50	68.50	447.25	619.25	1,377.50
平瓦(枚)	399.50	34.25	581.50	921.75	1,937.00
丸瓦(kg)	589.35	72.63	792.82	1,104.15	2,558.95
平瓦(kg)	2,452.54	363.33	2,191.51	3,362.26	8,369.64

第1表　丸・平瓦地区別数量表

い砂粒を含む。焼成はA類は全て硬質である。

丸瓦B$_1$(2・3)　玉縁式丸瓦で、全長38.0～39.0cm前後、玉縁長4.5～6.0cm、筒部幅13.0～14.0cm、玉縁幅9.0cm前後である。成形についてはA類に同様である。また筒部凸面には叩き目を残すものが多く観察され、叩き後に縦方向の板ナデの単位を強く残すものが見受けられる。凹面の布目には一枚布を型板に巻き付けた布端合わせ目、その補修布、布の綴合わせ目、そのほつれなど様々な情報がみてとれる。さらに玉縁部での先細りによる当布の余りを解消するため、布端付近である程度の幅を摘み布に立体感を持たせている「ダーツ」痕跡が約50%の丸瓦にみられる。その他粘土接合痕跡、糸切り痕跡など、総じて作り方が雑駁であるが故に多くの情報が得られる。色調は黒・灰白・褐色、胎土に細かい砂粒を含むものと、微細な粘土が縞状に観察されるものとがみられる。焼成は黒色のものはやや軟質であるが、他は硬質である。

丸瓦B$_2$(4・5)　玉縁式丸瓦で、全長40.0～42.0cm、玉縁長4.7～5.5cm、筒部幅13.0～14.0cm、玉縁幅9.0cm、B$_1$類に比べてやや長めのものである。成形・調整・色調・胎土・焼成・凸面・凹面の特徴などはすべてB$_1$類と同様である。B$_1$類とほぼ同割合の出土量を示す。

(2) **軒平瓦**

軒平瓦は、瓦当が残存するものが1点、瓦当を欠損しているが凸面にケズリを入れた平瓦片が(6)の他に3点出土した。

重廓文軒平瓦(6)　瓦当は損傷が多く、かろうじて4本の弧線が確認できるのみであるが、型押しとみられる弧文の間隔や特徴が、鈴鹿川右岸にある切山瓦窯出土の軒平瓦と酷似していることから、同様の重廓文と推定される。瓦当厚4.1cm、瓦当面から約3.5cm幅の曲線顎がつき、横方向のケズリ調整を施している。推定全長39.4cm、狭端厚2.9cm、顎以下狭端に向けて縦方向にケズリを施す。凹面は他の平瓦同様、粗く当布痕をナデ消すのみで所々に布目が残る。型押しされた文様部分が広端面に貼付けられている。色調は褐色、胎土は微細な粘土が縞状を成す。焼成はやや軟質である。

(3) **平瓦**

SK02の平瓦は隅総数計算法で581枚分を出土し、うち33枚の平瓦について観察・計測を行った。SK02では計測可能なA類が2点しかなく、B$_1$類が18枚、B$_3$類が13枚出土し、全て一枚作りである。

平瓦B$_1$(7)　全長35.0～37.0cm、広端幅23.5～26.0cm狭端幅23.0cm前後で、厚みが約2.0～2.5cmのものである。凸面は縄叩き、狭端は弧線に沿ってケズリを施し、丁寧なものは凹面側に面取りを行う。丸瓦同様、縄叩きのみで格子叩き等はみられない。広端は8割以上が狭端面調整時に広端面を下にして立てた時の藁スサ痕跡を残したまま未調整のものが多い。また広端面・狭端面には生乾き時についた指頭痕・掌痕が多く観察される。凹面は丁寧なものは、横方向に板ナデされ、布目が消される。大半は板ナデが部分的に施されるか、部分的あるいは全面に布目を残したまま未調整に近いものもある。また側面も大半が凹面側に面取りがなされ、一部側面に布目を残すものがあり、当布は一枚布であったことが推察できる。色調は灰・白・褐色、胎土は微細な砂を含むものと、微細な粘土が縞状をなすものとがみられる。焼成は概ね硬質である。

平瓦B$_3$(8)　寸法についてはB$_1$類と同じであるが、厚みが1.4～1.8cmと全体に薄作りな瓦である。成形・調整はB$_1$類と同じであるが、焼成が軟質ものが多く、色調も黒・灰白のものが多い傾向がある。

2　SK03出土瓦

丸瓦・平瓦・道具瓦が出土した。

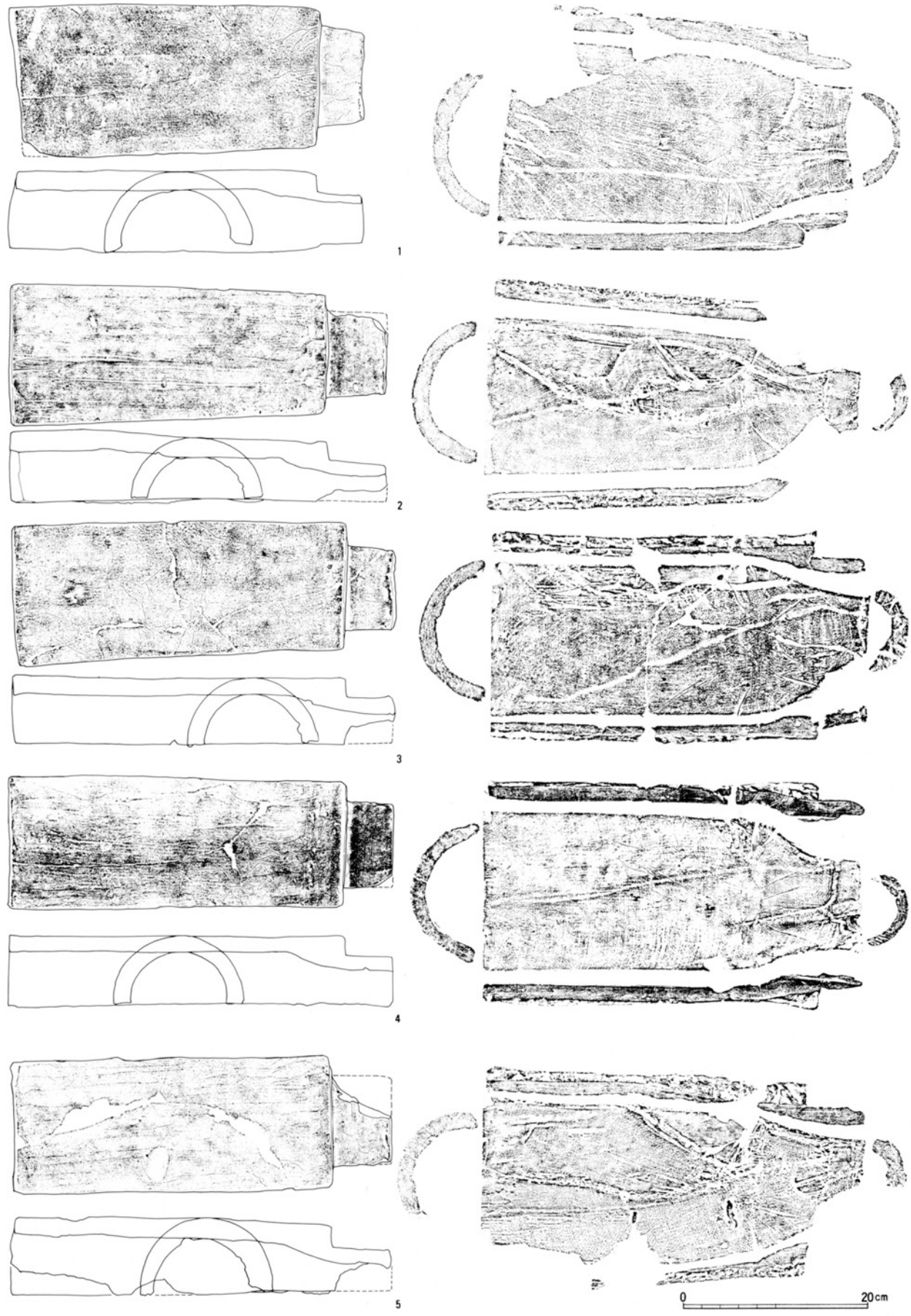
(1) **丸瓦**

SK03の丸瓦は隅総数計算法で620枚分が出土したものと推察される。そのうち58枚について観察・計測を行った。

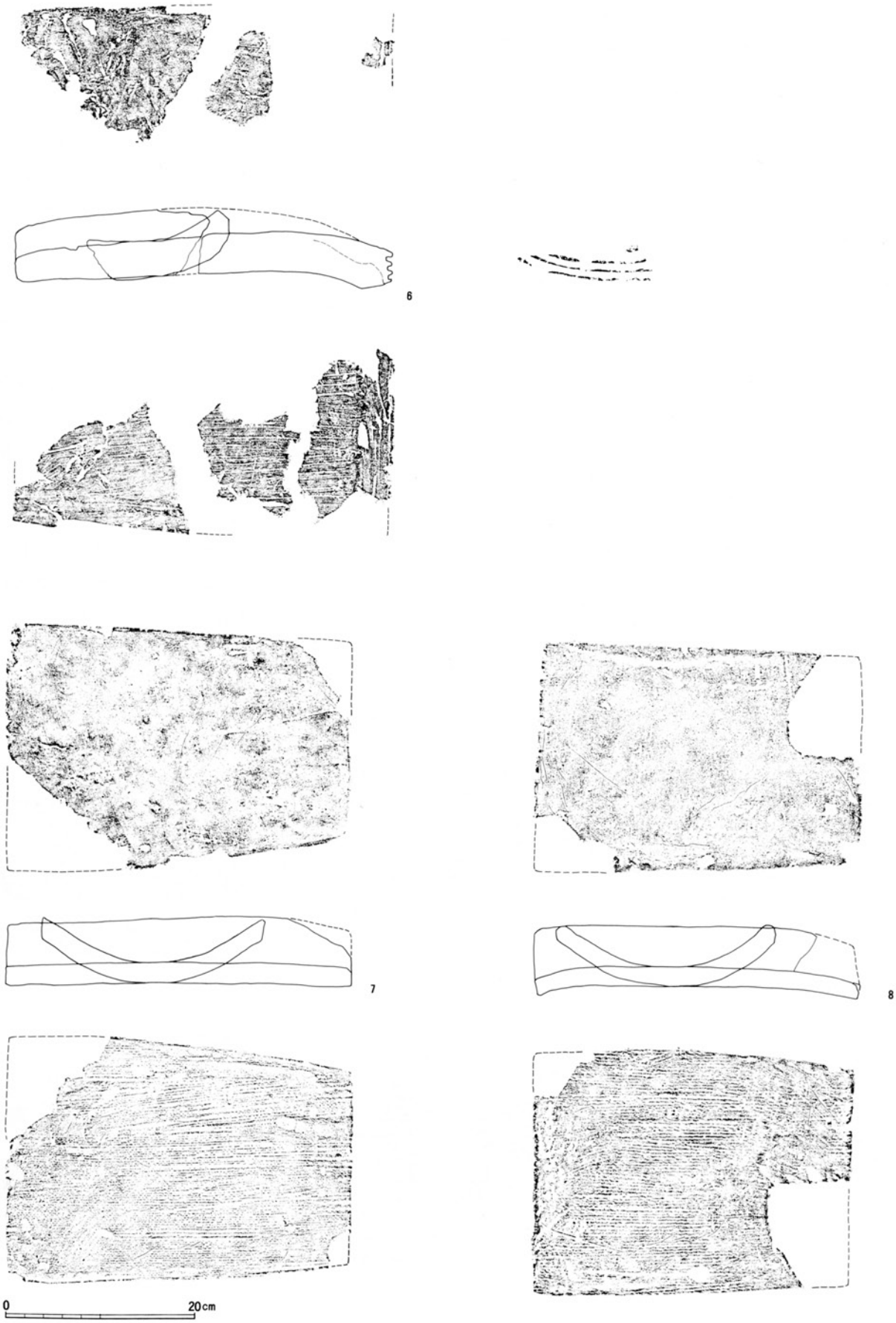
丸瓦A$_1$(9・10)　全長38.0cm前後、筒部幅16.0～17.0cmの極太のもので、成形については前述のA$_2$類と同様である。SK03では4枚を計測した。

丸瓦A$_2$(11)　全長36.0cm前後、筒部幅16.0～17.0cmの太短いものである。成形・調整等はSK02のものと同様である。SK03では1枚のみを計測した。

丸瓦B$_1$(12・13)　前述のSK02のものと同類で



第５図　ＳＫ02　出土丸瓦実測図・拓影（1:6）



第6図　ＳＫ02　出土軒平瓦・平瓦実測図・拓影（1:6）

ある。ＳＫ03では29枚を計測した。

丸瓦Ｂ$_2$(14)　全長40.0～42.0cm、玉縁長4.7～5.8cm、筒部幅12.0～13.0cm、玉縁幅9.0cm前後、Ｂ$_1$に比べてやや長めで、筒部幅が若干細いものである。ＳＫ03では19枚を計測した。成形・調整・色調・胎土・焼成については他のＢ類と同様である。

丸瓦Ｂ$_3$(15)　述のＳＫ02のものと同類で、ＳＫ03では５枚出土した。

(2)　**平瓦**

ＳＫ03出土の平瓦は隅総数計算法で922枚分が出土したものと推察される。そのうち71枚について観察・計測を行った。ＳＫ02に比べて1.5倍以上の数量を出土しているＳＫ03では、ＳＫ02にはみられなかったＡ類が各種みられるのが特徴である。

平瓦Ａ$_1$(16)　全長40.0～42.0cm、広端幅27.0～28.0cm、狭端幅22.0～28.0cmと大型のもので、厚みが2.0～2.5cmのものである。成形・調整・色調・胎土・焼成は他のＢ類と差異はないが、大型なためか焼け歪みがみられる。ＳＫ03で５枚を計測した。

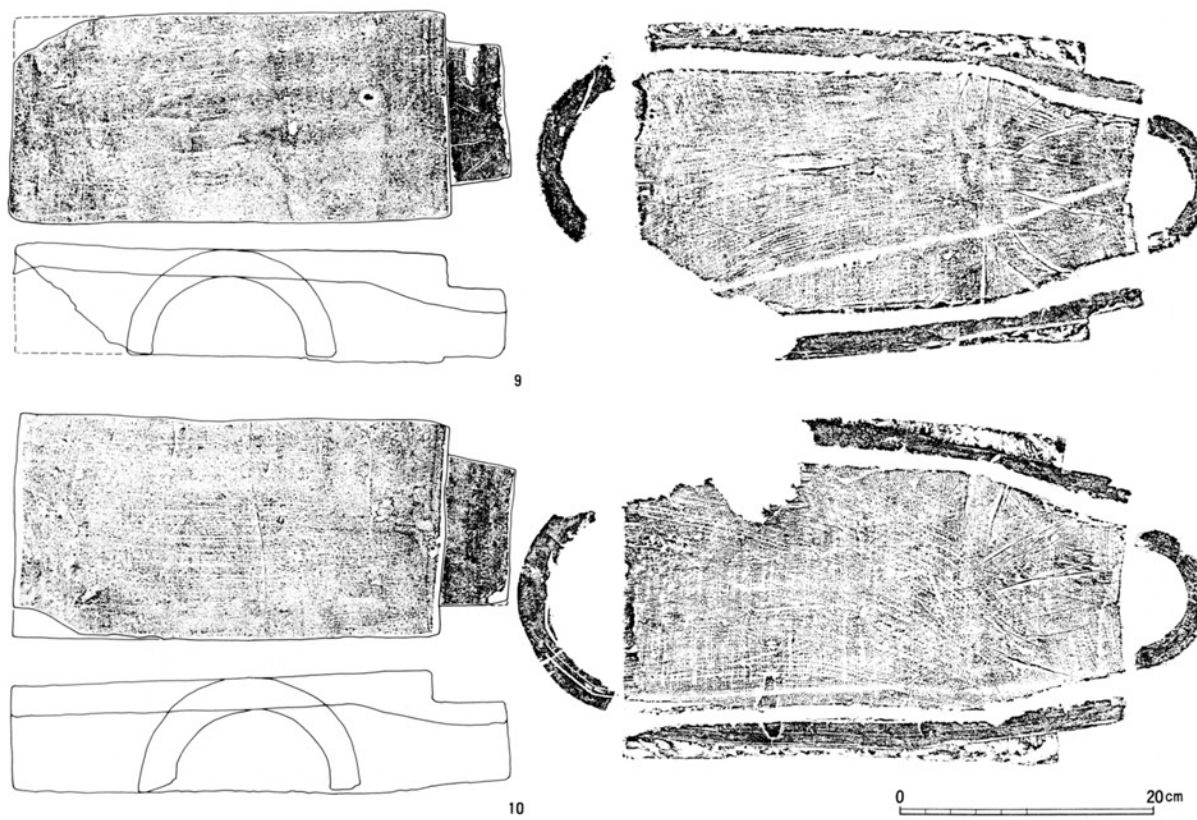
平瓦Ａ$_2$(20・21)　Ａ類の寸法のなかでも厚みが2.7cm以上ある大型で重厚なものである。ＳＫ03で３枚を計測した。調整時に凹面の側縁を縦方向に板ナデを施すが、そのナデ幅が他のものに比べて幅広である。色調が灰色が主であり、黒色・白色のものはみられない。

平瓦Ａ$_3$(17)　Ａ類のなかでも厚みが1.4～1.8cmまでの大振りではあるが薄型のものである。ＳＫ03では３枚を計測した。Ｂ$_3$類では黒色～白色のものが多くみられたが、Ａ$_3$では灰色の比較的硬質である。

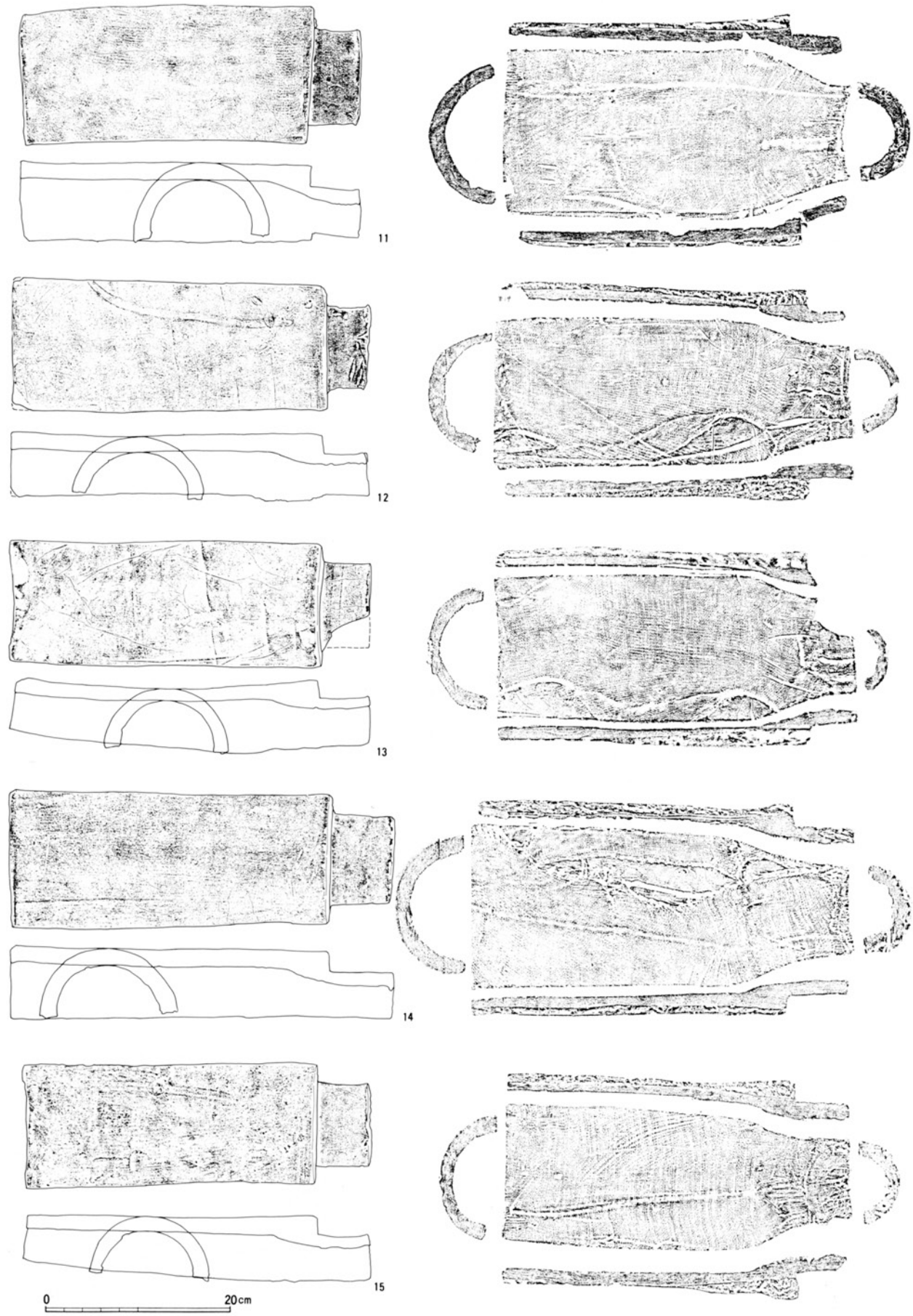
平瓦Ｂ$_1$(18・23)　ＳＫ02同様数量的に大半を占める。寸法また成形・調整ともにＳＫ02出土のものと同様である。ＳＫ03の平瓦の51％にあたる36枚を計測した。

平瓦Ｂ$_2$(22)　全長・広狭端幅はＳＫ02出土のＢ$_1$・Ｂ$_3$同様である。ただ厚みが2.8～3.0cmときわめて分厚い。Ａ$_2$と同じく焼けひびが入ったものがみられる。色調は灰色・褐色である。焼成は硬質である。ＳＫ03では４枚を計測した。

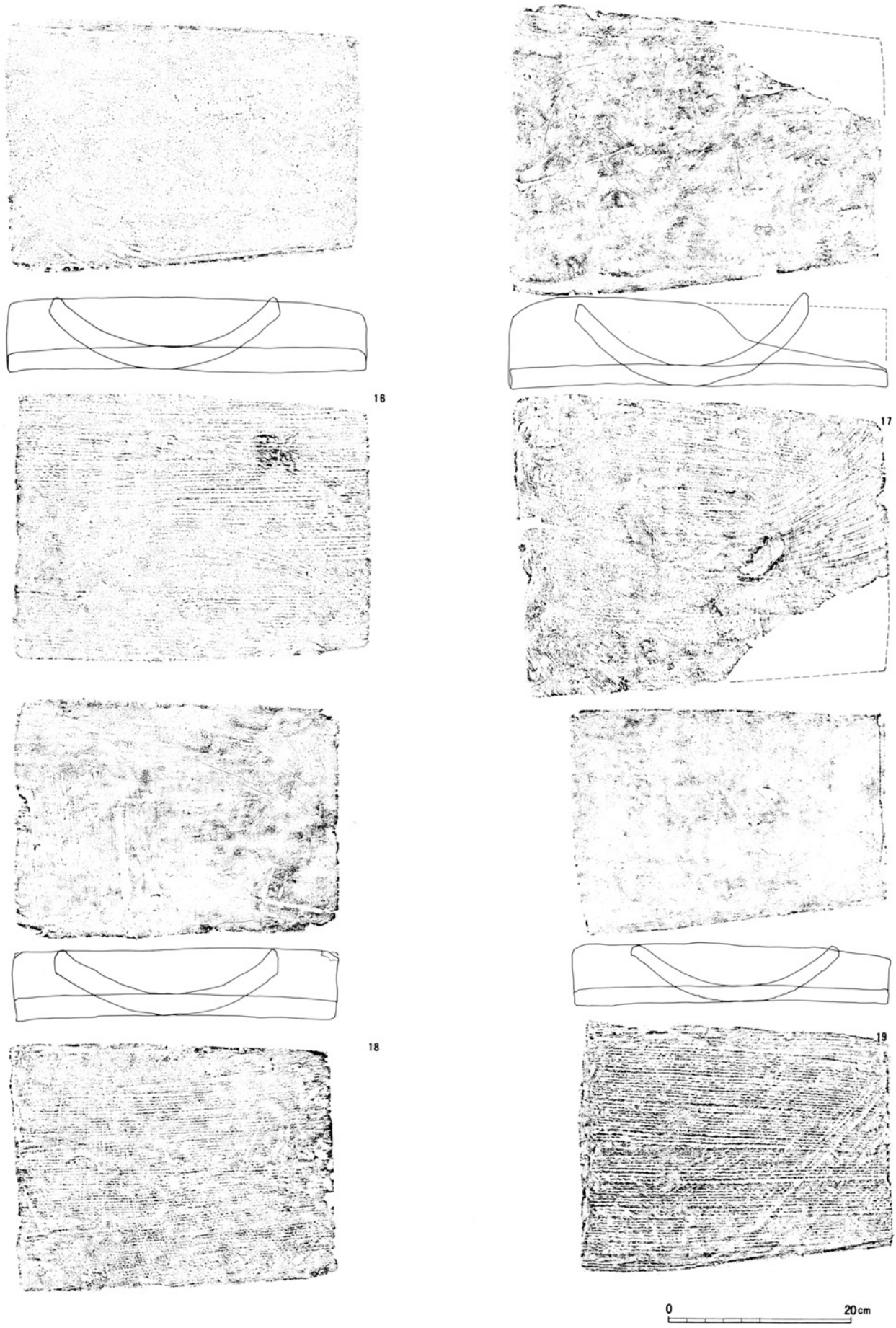
平瓦Ｂ$_3$(19)　ＳＫ02と同じ寸法である。黒色・白色でやや軟質のものもあるが、灰色の硬質のものも少なくない。ＳＫ03では、20枚を計測した。



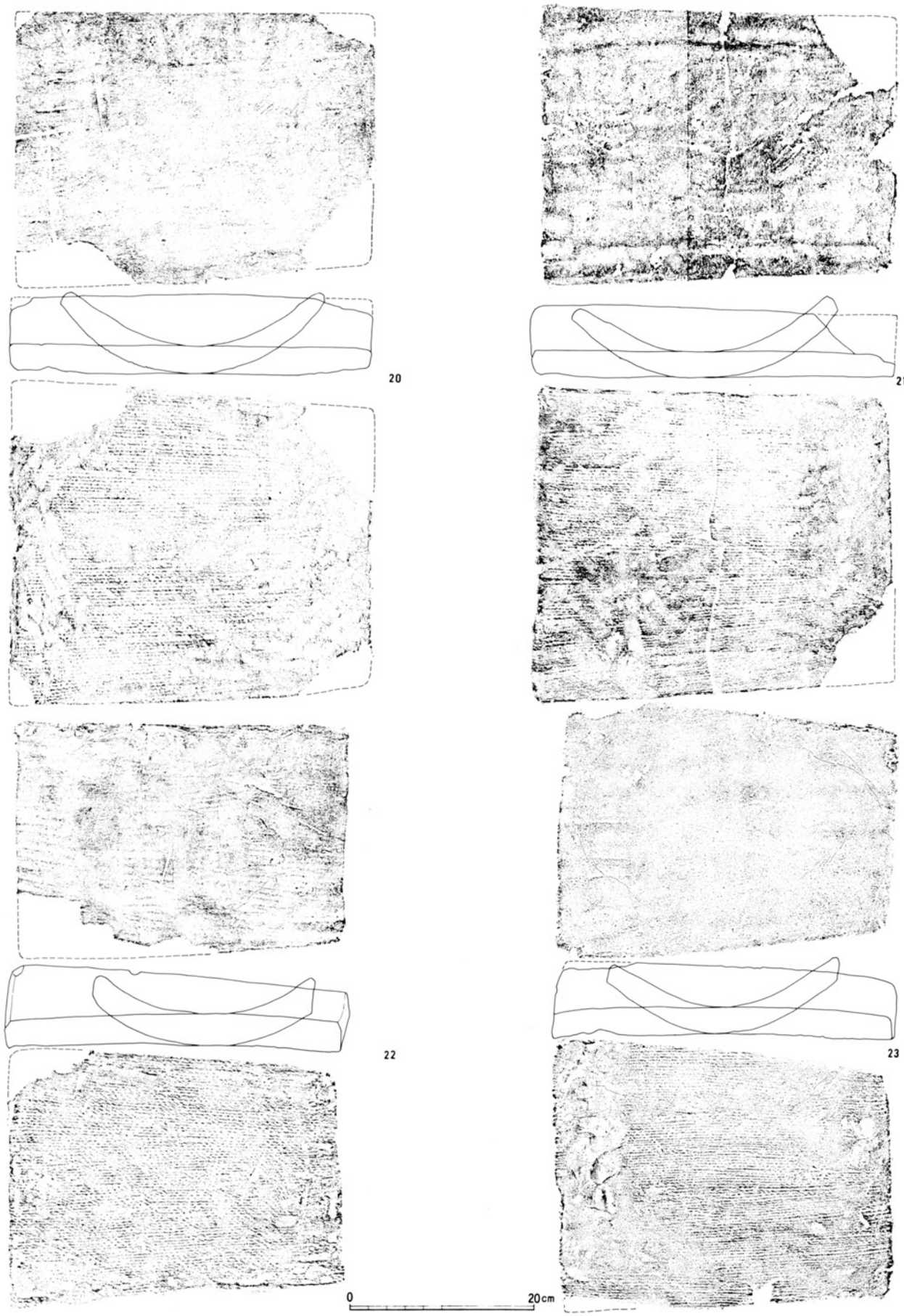
第７図　ＳＫ03出土丸瓦実測図・拓影（1:6）



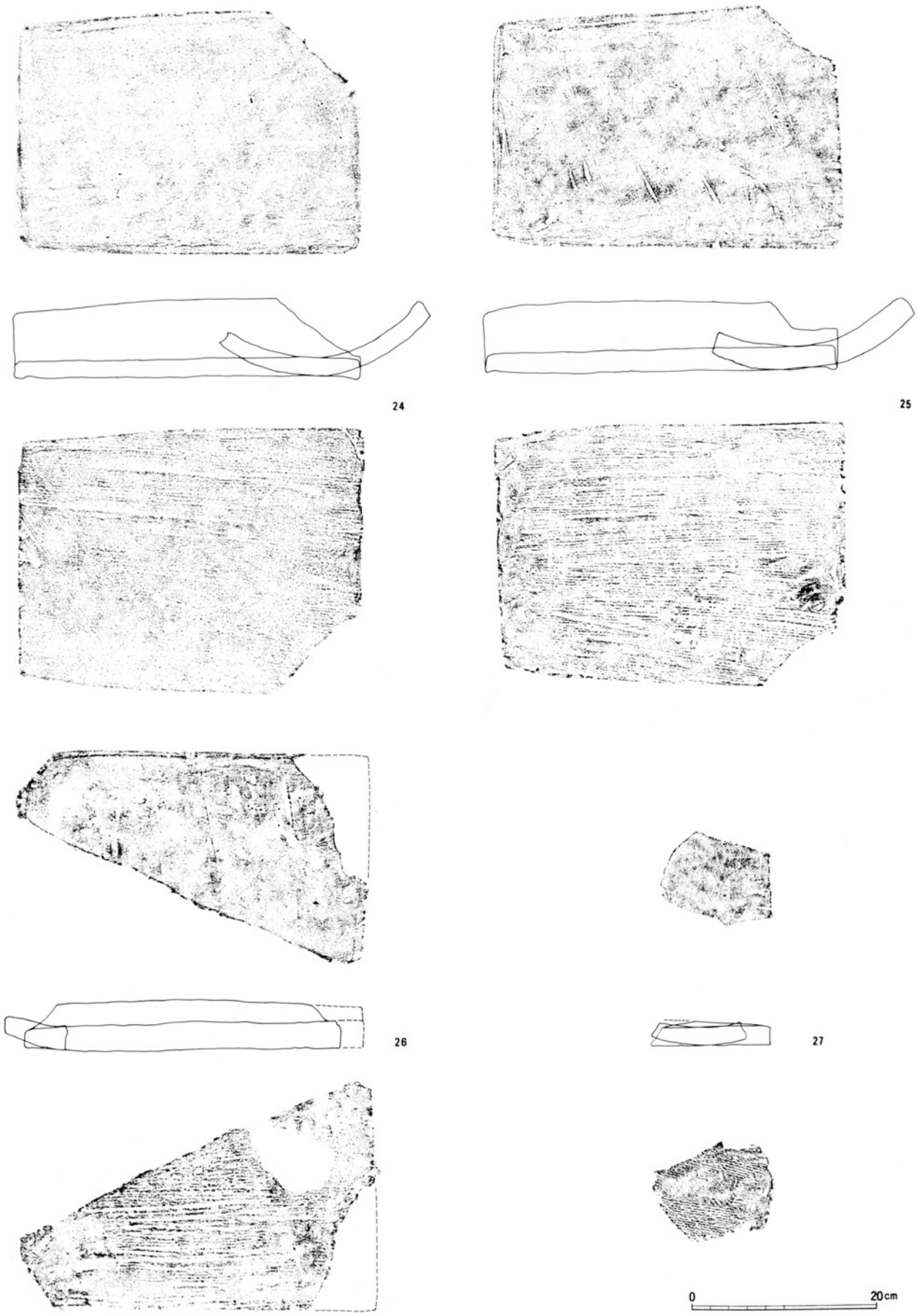
第８図　ＳＫ03出土丸瓦実測図・拓影（1:6）



第９図　ＳＫ03出土平瓦実測図・拓影（1:6）



第10図　ＳＫ03出土平瓦実測図・拓影（1:6）



第11図　ＳＫ03出土隅切瓦実測図・拓影（1:6）

3　道具瓦

道具瓦は全て平瓦をカットした隅切瓦で、26点を計測しいる。うち4点が表土・包含層出土である。この26点を観察すると、2つの大きな特徴があげられる。第一点は、隅を直線的におそらくは定規を当ててカットしたと思われるもの(A)と、フリーハンドで切断したと考えられるもので、曲線的に緩い円弧を描くように切ったとみられるもの(B)の二種類が存在すること。第二点は隅切瓦の狭端側の左右を各々カットしたものがA・B双方にあるということである。

隅切瓦A_a(24・25)・A_b　平瓦の広端を凸面側からみて左隅を切ったものをA_a類、同じく右隅を切ったものをA_b類とした。いずれも寄棟屋根等の隅に配されるものである。(24)・(25)いずれもB_1類の平瓦で、A_a類が6点、A_b類が4点ある。

隅切瓦A_c(26)・A_d(27)　平瓦の狭端を凸面側からみて左隅を切ったものをA_c類(26)、同じく右隅を切ったものをA_d類(27)とした。24点中A_c類が3点、A_d類が5点ある。

隅切瓦B_a・B_b(28・29)　カットの仕方は曲線的であるが、通常の広端左側をカットしたものをB_a類、また広端右側をカットしたものをB_b類とした。B_a類が1点、B_b類が3点ある。

隅切瓦B_c・B_d　A_c・A_d類に同じく、狭端左隅を切ったものをB_c類、狭端右隅を切ったものをB_d類とした。B_c類が1点、B_d類が3点ある。

4　近世瓦

SK01およびその直上の包含層・表土から現代瓦・布目瓦を混在した中に近世の瓦と思われるものが少なからず出土した。調査期間等の制約からSK01出土瓦は重量計則を行ったのみであるが、なかでも代表的なものを(30)～(37)にあげる。

軒丸瓦(30)　瓦当外径16.7cm、残存長5.8cmである。17世紀代のものと思われる。

丸瓦(31)　焼成の硬質のものから、軟質のものまで様々なものがあったが、完存するものはなかった。釘止めのための小穴がみられる。凸面は縦方向にケズリ、凹面は布目を縦方向にナデ消している。

軒平瓦(32・33)　いずれも完存するものはなく、瓦当文様も磨滅気味である。(32)は隅軒瓦である。

軒丸瓦(34)　瓦当外径が7.4cmの小型の軒丸瓦である。塀などに葺かれたものと思われる。

瓦塔片(35・36)　瓦塔の小破片と思われる屋根の一部である。いずれも8.0cm前後の小片である。平瓦は沈線で表現するのみで、丸瓦は棒状の粘土を貼付け、瓦当部に二重の同心円を型押しする。

鬼瓦(獅子口)裏把手(37)　鬼瓦あるいは獅子口の裏面にとりつく把手である。23.5cm残存するが、これよりもひと回り小型の把手も1点出土している。

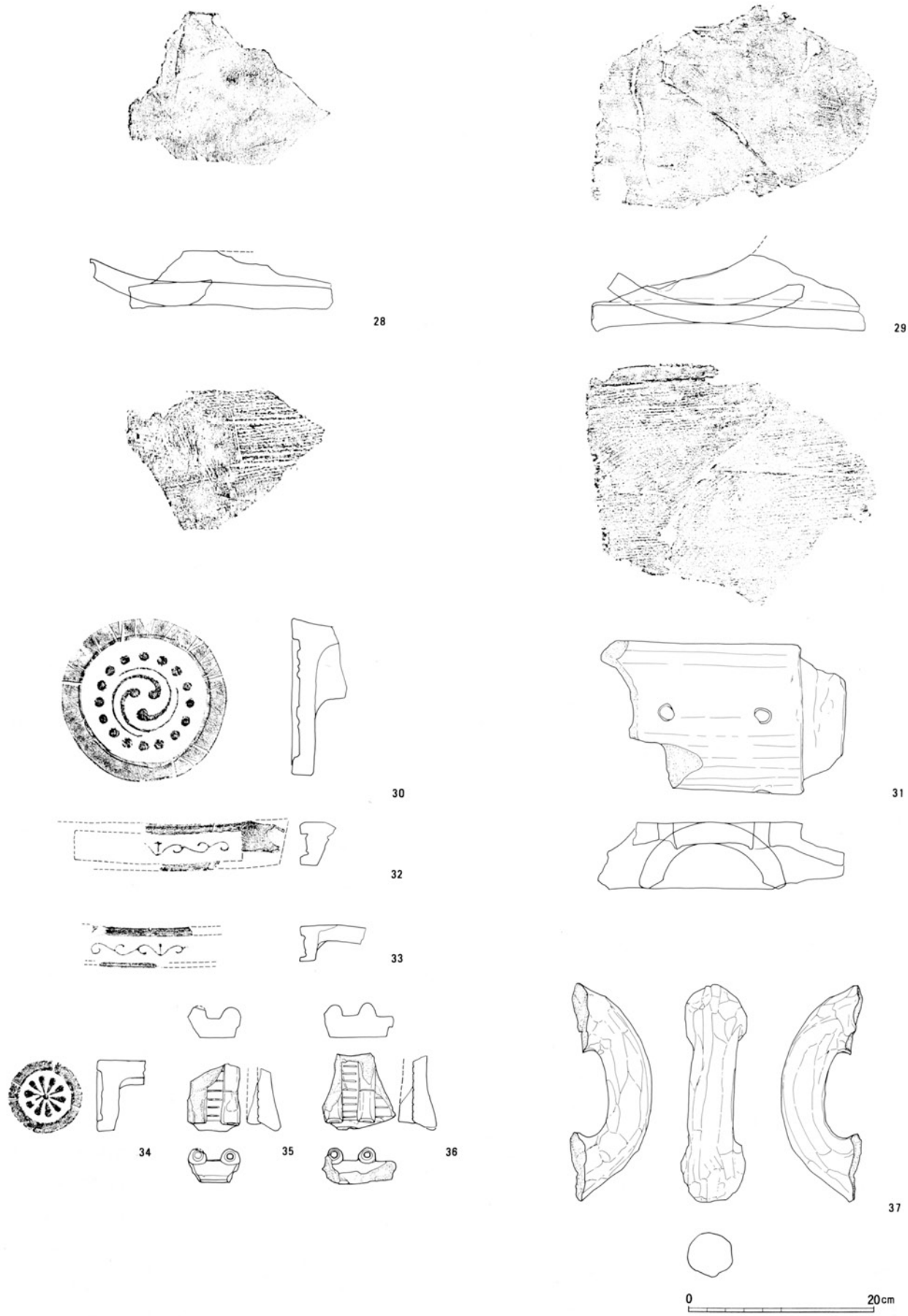
これらの他に、留蓋・鳥衾などが出土した。

V　結　語

当遺跡は工事途中で発見されたもので、当初瓦窯かあるいは鈴鹿関に関わる建物跡なのか、いずれにしてもこれまで知られていなかった地区での調査となりその解明が急がれた。以下、調査を終えて確認できた遺跡の性格と、瓦の観察から気付いた点について若干の考察を行いまとめとしたい。

1　遺跡の性格について

当初、瓦窯・関跡・寺院等様々な遺跡の性格が推測されたが、柱穴等建物に関わる遺構の存在しないことが明かとなり、夥しい量の瓦は屋舎に葺かれていた瓦ではないことが確認できた。そうした場合に次に推測されるのが瓦窯であるが、対岸の切山瓦窯の存在もあって、立地的にも十分その可能性があったが、それとするにはあまりに炭・焼土が少なすぎた。そこで多量の瓦が帯状にある程度のまとまりをもって投棄されていること、北上がりの調査区の丘陵寄りの北壁付近では、焼土・窯壁の出土が多いこ



第12図　ＳＫ03出土隅切瓦、近世瓦実測図・拓影（1:6）

となどから、本遺跡はほど近い場所に瓦窯があり、瓦窯の灰原に蓄積された投棄瓦の二次処分場とされた場所ではないかと考えられる。ＳＫ01によって東と西に分かれた帯状の瓦溜まりとなってしまったが、ＳＫ01にも100枚近くの丸・平瓦が出土していることを考えると、ＳＫ02から西へ一帯にこの投棄場所は広がっていたものと考えられる。

2　瓦の供給先

また供給先としては、限定されたわけではないが、立地的に考えても鈴鹿川による川での水運による手段をとっていたものと推測され、鈴鹿川下流域の瓦消費地を検討していきたい。同時に鈴鹿関が切山瓦窯とは違う同じ左岸側に位置することを考えると、関の諸施設が最も身近な供給先と推測される。

3　出土瓦の時期

この瓦の時期であるが、時期区分の目安となる軒瓦の少なさ、土器を全く伴わないといった条件から極めて大雑把な時期しかつかめない。しかし切山瓦窯の軒平瓦との類似性、瓦粘土の特徴の共通性などから考えても、１点しかないが重廓文軒平瓦が出土していること、これが平城宮出土軒瓦編年表[6]では天平初頭～神護景雲元年に比定されている。また聖武天皇の伊勢行幸(740年)に関連するものかと考えられる瓦生産が県下各地で行われていることや関の廃止(789年)がなされたこと、以上のことから一応、８世紀半ばから後半にさしかかる時期を考えておきたい。

4　丸瓦の当布について

丸瓦凹面にみられる当布痕跡から、いくつか気付いた点についてあげておきたい。

(1)　当布のサイズ

当布は各種瓦のサイズに合ったものが存在したのではなく、最長の丸瓦でも「折返し」(39・40)をとっていることを考えると、47～48cmはあったものとみられる。それを「折返し」とダーツ(4・41)によって、玉縁部分に余り布の皺が寄らないように工夫していたものではないかと考えられる。

(2)　ダーツ

「ダーツ」とは洋裁の用語であるが、機能として一枚布に立体感を出すことを目的とした縫い込みであるために、この名称を用いた。(41)にも観察されるように、余剰布分を折り込んで両端を粗いまつり縫いで綴じ合わせるものである。したがってダーツ両側の布目はダーツを中心に引き寄せられたものとなり、ダーツ末端で布目の筋が通っており、一枚布の部分的綴じ合わせが行われていることがわかるものである。

(3)　まつり方

先述のダーツの綴じ合わせ、布端の処理、補修布と下地の縫い合わせは基本的に全てまつり縫いで処理されている。(38)は布の綴じ合わせ部分、(39)は同じく綴じ合わせ部と折返しの布末端、(41)ではダーツ、(42)では補修布の綴じ合わせにすべてまつり縫いで処理してあることが観察される。縫い目の粗細はあるが、いずれも右利きの人の手による右上がりのまつり目である。(39)で左上がりの縫い目となっているのは、布表を粘土側に向けて縫った側を型側に当てているもので、折返しは当然粘土側に布裏が押圧される。これと反対で布表を型側にしていると折返しで布表が粘土側に押圧される(40)。

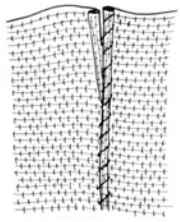
以上のような当布の綴じ合わせ方、まつり方、型への巻き方など多くの情報を得ることができた。

5　隅切瓦から推定される屋根形態

隅切瓦のなかに狭端側をカットしているものが幾つかみられ、これは通常の単独棟の屋根(寄棟・入母屋)では使われる部位が見当たらない。そこで考えられるのが、①何らかの必要性から広端狭端を逆位で使う必要があったため、カット位置が狭端の左右となった。②奈良時代では考えにくいが、Ｌ字状に直交する二棟を一屋根で葺いたため、屋根に谷屋根が生じ、谷瓦として必要になってきたため。このどちらかであろうと思われる。①はその必要性において理由を限定しかねるし、また②においては供給先の建物が単独堂塔で成り立つ公的施設ではなく、非公的な連続棟の建物ではないかと推測される。

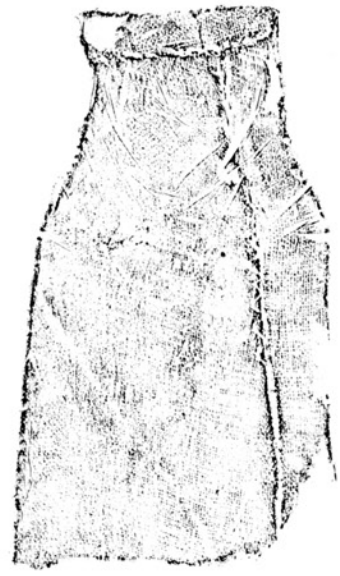
38

布綴合わせ痕跡



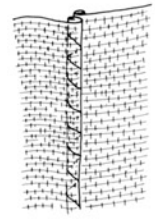
・縫い代⇨粘土側

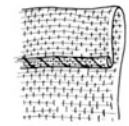
・布表　⇨型側



39

布綴合わせ痕跡



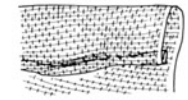


・縫い代⇨型側　→折返すと縫い代が粘土側

・布表　⇨粘土側

40

まつり縫い

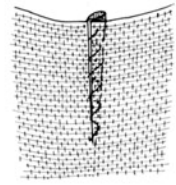


・縫い代⇨粘土側

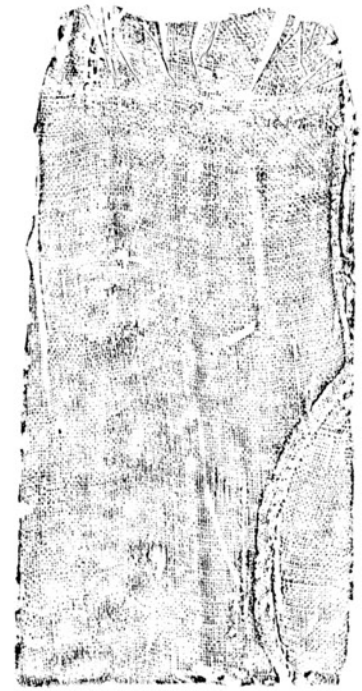
・布表　⇨型側　→玉縁部折り返しに布表の痕跡

ダーツ

・当布に余分をなくすために余分布をつまむ



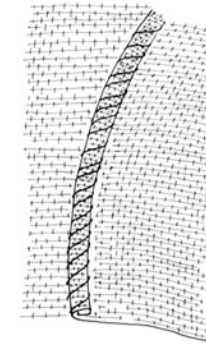
41



補修布

・当布の部分補修

（縫い代⇨粘土側）



42

0　20cm

第13図　丸瓦凹面当布・拓影（1:4）

地区名	日付	布目瓦(kg)	近世・現代瓦(kg)	近世・現代道具瓦(kg)	窯壁(kg)	壁土(kg)	地区別総重量(kg)	備　考
A2	518	0.10	0.30					
A2	520	26.50	60.00		2.50	1.30	90.70	土器片1片
A3	517	7.00	49.50		0.40			
A3	518	117.50	460.00		2.60	1.00		土器片0.4kg
A3	520	75.50	114.00		2.50		830.00	
A4	517	0.05	17.50		0.05			
A4	518	22.00	517.00		7.00	5.00		
A4	520	16.00	124.00		10.00	1.50	720.10	
B3	518	27.00	38.00	0.20	0.50			獅子口把手
B3	520	14.50	5.50		0.15		85.85	
B4	517	13.50	67.00		0.05			
B4	518	51.50	444.50		17.00			
B4	520	14.50	27.50		2.00		637.55	
C4	517	0.02	0.50					
C4	518	80.00	94.00		1.50			
C4	520	12.00	30.00		0.10		218.12	
C5	520	2.00	0.50				2.50	
D3	521	0.00	27.00		0.80			
D3	526	0.10	20.00		3.00	0.10	51.00	
D4	517	0.10	0.20					
D4	518	7.00	100.00					
D4	520	8.00	32.00				147.30	
D5	520	10.50	61.00		0.10		71.60	
E4	520	5.00	13.00				18.00	
E5	520	3.00	13.50		0.30		16.80	
種別総重量		513.37	2316.50	0.20	50.55	8.90	2889.52	
各重量		17.8%	80.2%	0.0%	1.7%	0.3%	100.0%	

第２表　ＳＫ01近世・現代瓦：布目瓦重量比

［註］

① 八賀　晋「伊勢国鈴鹿関に関する基礎的研究研究成果報告」1992年
② 森川幸雄「鈴鹿郡関町出土の古瓦」（『Mie history vol.4』三重歴史文化研究会1992年
③ 清水正明「切山瓦窯跡・裏ノ山中世墓発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター　1994年
④ 京都大学文学部考古学研究室「丹波周山窯址」1982年
⑤ 佐原　真「平瓦桶巻作り」（『考古学雑誌第58巻２号』1973年
⑥ 奈良国立文化財研究所『平城宮跡発掘調査報告』ＸＩＩＩ　1991年

［参考文献］
河北秀実他「牧瓦窯跡群」『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告第１分冊２』
三重県教育委員会1989年
奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所基準資料Ｉ瓦編１解説』
奈良国立文化財研究所『奈良国立文化財研究所基準資料II瓦編２解説』

凡例

①整理No

→ＳＫ01＝1　R0001　ＳＫ02＝2　F0001

↓　↓　　↓　↓

SK01 丸瓦　　SK02 平瓦

②破面（＝分割破面）：截面（＝分割截面）

→筒部厚における各々の比率

③布端合痕

→丸瓦凹面において布端をクロスした痕跡

④布綴合痕

→型幅全体にわたる布の接ぎ合わせ痕跡．平瓦における布綴合痕は桶巻による布の巻合目とは異なる．

⑤粘土接合痕

→平瓦凹面で観察できる粘土接合痕は桶巻による粘土巻合目ではなく、粘土継目の上下を桶巻瓦と同じ観察点で見た時の継ぎ方を示した．

丸瓦　計測表

1R:SK01丸瓦　2R:SK02丸瓦　3R:SK03丸瓦　HR:表土・包含層丸瓦

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ﾀﾞｰﾂ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
		HR 0001	B1	B3 512	縄叩き	灰		軟	392	339	56	139		12～21	13	3	凸凹					○	○	1:3 1:4	1.50	表土
		HR 0002	B2	E6 514	縄叩き	黒		軟	402	347	52			22	12	3	凹			○6.0cm		○	○	1:3	1.00	包含層

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ﾀﾞｰﾂ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
		1R 0001	B2	A3 SK1	縄叩き	灰		軟			62	135	95	19	15～20	2	凹			○19.3cm	○	○	○	1:3	1.60	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ﾀﾞｰﾂ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
		2R 0001	B1	D5 604	縄叩き	褐		軟			52	136	92	14	19	2					○	○		2:3		194
		2R 0002	B2	D5 604	〃	灰		軟			53	132	95		20	2	凹	S			○		○	2:3		192
		2R 0003	B2	D5 604	〃	灰		軟			50	127	93	20	20	2	凹				○	○	○	2:3		190
		2R 0004	B1	D5 604	〃	灰	縞文	硬			46	117	80	16	19	2	凹				○	○		1:1		190
		2R 0005	B1	E5 517	〃	灰		軟			52	128	89	18	17	2					○	○	○	1:3		183
		2R 0006	B1	E5 608	〃	灰		軟			48	124	88	17	13	2							○	1:3		
		2R 0007	B1	E5 608	〃	灰		軟			47	130	90	17	16	2						○		1:1		
		2R 0008	B1	E5 608	〃	灰		硬			60	130	88	18	6～14	2							○	1:3		
		2R 0009	B1	E5 608	〃	灰		軟			54	125	85	15	16	2		Z			○			1:1 破面のみ		
015-01		2R 0010	B1	D5 603	〃	黒		軟		322		138	105	15～18		3	凹	Z	○			○	○	1:3 1:1	2.10	
016-01		2R 0011	B1	D6 602	〃	白		軟			48	126	91	11	15～19	2	凹	S	○歪む	○15.0cm		○	○	截面のみ 1:1	1.44	
		2R 0012	B2	E5 517	〃	灰		軟			62	136	99	21	16～20	2	凹	Z		○6.5cm			○	1:3	1.56	
		2R 0013	B2	A5 517	〃	灰		硬			57	138	94	21	17	2	凹		○			○	○	1:1	1.95	
		2R 0014	B1	C5 602	〃	黒	縞文	軟	395	344	51	128		17		1	凹	S	○			○		1:3	1.21	
029-01		2R 0015	B2	E5 608	縄叩き ケズリ	灰	縞文	硬		350		138	100	16		4	凹	S		○残8.0cm				1:1	1.90	
028-01		2R 0016	B2	E5 517	ケズリ	橙		硬		357		144		23	20	4	凹	Z	○歪む	○9.5cm		○	○	1:3	1.80	
012-01	1	2R 0017	A2	C5 517	縄叩き	灰～褐	縞文	硬	360	314	46	156	110	19～23	10	4	凹		○	○5.0cm				1:1 1:3	2.28	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ダーツ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
		2R 0018	B1	D5 604	ケズリ	黒		硬			59	140	97	15～24	12	2	凸凹	Z				○	○	1:4	1.55	
025-01		2R 0019	B2	E5 608	縄叩き	灰	縞文	やや軟			55	136	97	20	22	2		Z				○	○	1:1 1:3	1.64	界線ミス
026-01		2R 0020	B1	E5 608	ケズリ	灰	縞文	硬			55	135	97	16～21	19	2	凹	Z	○			○	○	1:1 1:2	1.44	布端紐あり
024-01		2R 0021	B2	E5 608	縄叩き	褐	縞文	やや軟	409	352	57			23	27	2	凹	S	○歪む	○11.5cm			○	3:2	1.66	
013-01		2R 0022	B2	D5 608	縄叩き ケズリ 布目	黒		硬	404	354	50	134～140	92	20	12～20	4	凹	S					○	1:8	2.40	補修布あり
014-01	4	2R 0023	B2	D5 608	縄叩き ケズリ	黒	縞文	軟	407	348	57	137～156	97	19	16～20	4	凹	S	○	○13.0cm	○		○	3:2 1:2	2.50	凸面布目あり
027-01		2R 0024	B1	E5 608	縄叩き	灰		硬			49	136	98	20	16	2	凹	Z	○			○	○	1:4 1:9	1.54	
030-01	2	2R 0025	B1	E5 608	ケズリ	灰	砂	硬	398	333	59	141	92	19	14	4	凹		○歪む			○	○	2:3 3:2	2.44	補修布あり
017-01		2R 0026	B1	C5 608	縄叩き →ケズリ	灰		硬			55	132	92	17	15	2	凹		○			○	○	1:1 3:1	1.31	玉縁凸面端部面取り
018-01		2R 0027	B1	C5 604	ケズリ	白	縞文	やや軟			37	132	90	18	19	2		Z		○9.0cm			○	1:2 2:1	0.96	円筒分割位置が左右ズレ
019-01		2R 0028	B2	C5 604	ケズリ	白	縞文	軟	400	355	45	143	93	19	20	4	凹		○			○	○	截面のみ 1:1	2.20	
		2R 0029	B2	C5 604	ケズリ	白	縞文	軟	400	359	40	144	99	19	13	4	凹					○	○	破面のみ	2.40	円筒分割位置が左右ズレ
020-01		2R 0030	B1	D5 604	縄叩き	黒	縞文	硬			44	126	88	12～19	12	2	凹	Z				○	○	1:2	1.46	
021-01		2R 0031	B1	D5 604	ケズリ	灰	縞文	軟			48	134	96	19	18	2	凹	Z			○?	○	○	1:8 1:3	1.05	
022-01	39	2R 0032	B2	D5 608	縄叩き →ケズリ	白	縞文	やや軟			55	142	96	20	19	2		S	○歪む		○		○	1:8	1.66	
023-01		2R 0033	B2	D5 608	ケズリ	白	縞文	硬			48	136	96	18	19	2	凹	S	○		○			1:3	1.12	
031-01		2R 0034	A2	E5 604	ケズリ	灰白		硬			51	150	96	21	17	2		Z				○	○	1:4	1.85	
032-01		2R 0035	B1	E5 604	縄叩き →ケズリ	灰	縞文	軟	395	348	47	133	93	14～20	16	4		S	○	○19.0cm			○	1:8 截面のみ	1.90	
033-01		2R 0036	B2	E5 604	ケズリ	灰白	縞文	硬	400	360	40	146	94	22	18	3	凹					○	○	1:8 3:2	1.76	
034-01	3	2R 0037	B1	E5 604	縄叩き →ケズリ	灰白		硬	386	328	57	135	91	22	16	4	凹	Z		○10.0cm	○		○	3:1 截面のみ	2.13	
035-01		2R 0038	B2	E5 604	ケズリ	灰白	縞文	やや軟	405	353	50	143	94	23	19	4	凹		○歪む	○10.5cm		○	○	3:2 1:3	2.26	
036-01		2R 0039	B1	E5 608	ケズリ	白		硬			45	139	98	18	17	2	-	Z	○歪む	○13.0cm			○	1:3	0.70	
153-01		2R 0040	B2	E5 517	ケズリ	褐		硬	414	361	50	136	92	15～21	15	3	凹			○12.5cm		○	○	1:3	2.05	
152-01		2R 0041	B1	E5 517	ケズリ	白	縞文	硬			46	134	91	14	19	2	凹		○	○10.5cm		○	○	2:2 3:1	1.30	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ダーツ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
154-01		2R 0042	B1	E5 517	ナデ	灰～白		軟	383	335	49	140	85	13～16	13	4	凹		○	○9.0cm		○	○	1:1 1:3		補修布あり
155-01		2R 0043	B2	E5 604	ケズリ	褐	縞文	硬			59	141	98	19	18	2	凹	S					○	1:1	1.45	
		2R 0044	B1	C5 604	ケズリ	灰	縞文	硬			57	142	93	18	15	2		Z			○		○	4:1	1.06	補修布あり
		2R 0045	B2	C5 604	ケズリ	灰		硬			48	143	102	20	18	2			○			○		3:2	1.15	
		2R 0046	B2	C5 604	ケズリ	灰	縞文	硬				146		20		2	凹					○	欠	1:1	1.70	
146-01	5	2R 0047	B2	E5 602	ケズリ	褐		硬	402	307	62	142	94	18	12	4	凹	S	○	○9.5cm		○	○	2:3 3:1	2.74	補修布あり
		2R 0048	B1	E4 604	横ケズリ 縄叩き	灰	精緻	硬			50	130		18	18	2	凹		○			○	○	2:3	1.60	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ダーツ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
133-01	13	3R 0001	B1	F4 609	縄叩き	灰		硬	378	322	55	133	95	17～20	14	4	凸凹			○3.5cm	○	○	○	2:3 3:2	1.86	
135-01		3R 0002	B1	F4 609	〃	灰		軟	413	362	52	143	99	23	19	4	凹					○	○	1:1	2.42	
134-01		3R 0003	B2	F4 609	〃	灰～褐	縞文	硬		351		143	97	17～20	15	4	凹	Z		○8.0cm			○	1:1	2.00	玉縁折返深い
136-01		3R 0004	B1	F4 604	〃	〃		やや軟	391	341	47	143	94	19	15	4	凹		○		○	○	○	1:3	1.97	
122-01		3R 0005	B1	D3 609	〃	白	縞文	軟	390	331	56	137		21	13	3	凹			○5.0cm		○	○	1:3	1.85	布端紐あり
		3R 0006	B1	B2 609	〃	灰	縞文	硬	395	339	55	136	94	20	18	3	凹	Z	○					1:3	1.94	
104-01		3R 0007	B2	B2 609	ケズリ	灰	縞文	軟	409	352	54	141	102	21～25	13	3	凹	S				○	○	1:1 1:2	2.35	
100-01	11	3R 0008	A2	A2 609	縄叩き	灰		硬	362	308	51	144	100	20	13	4	凹		○	○8.0cm			○	1:3 1:4	2.26	布端紐あり 界線ミス
110-01		3R 0009	B2	C3 609	〃	黒		硬	411	357	55	146	97	23	17	3	凹					○	○	1:4	2.47	布端紐あり
109-01		3R 0010	B1	C3 609	〃	白	縞文	硬	376	317	56	142	100	22	15	4				○4.5cm		○	○	1:1	2.30	
129-01	15	3R 0011	B3	E3 609	〃	灰		硬	361	312	56	129	97	16	14	4	凹	Z	○				○	2:3	1.95	
127-01		3R 0012	B1	E3 609	〃	灰		硬		319		129	92	20	13	3	凹		○			○	○	1:1 1:3	1.64	補修布あり
130-01	14	3R 0013	B2	E3 609	〃	白	縞文	硬	410	340	68	145	101	16～20	19	4	凹		○			○	○	1:1 1:3	2.40	
128-01	12	3R 0014	B1	E3 609	縄叩き ヨコナデ	灰	縞文	硬	378	330	45	139	93	17	10～15	4	凹			○7.0cm		○	○	1:3 1:1	2.00	界線ミス 補修布あり
126-01		3R 0015	B1	E3 609	縄叩き	黒		やや軟	394	342	56	142	97	15～23	25	4	凹		○	○8.0cm		○	○	2:3 1:4	2.52	
125-01		3R 0016	B1	E3 609	縄叩き ケズリ	灰		軟	392	348	46	146	98	16～22	13	4	凹	Z		○6.0cm			○	1:1 2:3	1.86	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ダーツ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
131-01	10	3R 0017	A1	E3 609	縄叩き	灰	縞文	硬	385	326	54	171	118	25～29	16	4	凹		○				○	1:3 1:4	3.56	
132-01	9	3R 0018	A1	E4 609	〃	灰	縞文	硬	384	336	43	162	111	20～24	18	3	凹		○歪む				○	1:4 1:3	3.00	切断ミス
118-01		3R 0019	B1	D3 604	〃	黒		やや軟	394	342	51	139	92	19	18	3			○			○	○	3:1 1:5	1.82	切断ミス
		3R 0020	B1	F4 609	〃	灰	縞文	硬				124	86	17	14	2			○		○	○		1:1	1.36	補修布あり
097-01		3R 0021	B1	A2 610	〃	黒		軟	385	321	63	132	91	18	17	2	凹					○	○	1:3	1.53	
140-01		3R 0022	B2	F4 609	ケズリ	白	縞文	硬	410	358	46	130～150	94	19～22	18	3	凹	Z	○	○7.0cm			○	3:2 1:1	2.00	
139-01	40	3R 0023	B2	F4 609	ケズリ	灰		硬	422	366	52	139～155	94	20	8～18	4	凹	Z	○	○10.5cm			○	1:1 1:3	2.41	
138-01	42	3R 0024	B2	F4 609	ケズリ	灰		硬		352		141～150	94	15～27	14	4		Z		○5.5cm		○		1:2 3:1	2.52	切断ミス 補修布あり
111-01	41	3R 0025	B2	C3 609	ケズリ ヨコ→タテ	灰		硬			52	145	96	22	16	2	凹	Z	○歪む	○21.0cm			○	1:8	1.65	
		3R 0026	B1	C3 609	縄叩き →ナデ	白～黄	縞文	硬			67	136	94	16	12	2	凹				○		○	2:3 3:2	1.16	
119-01		3R 0027	B1	D3 610	縄叩き	灰		やや軟		330		136	97	17～21	13	3	凹					○		1:3	1.66	補修布あり
117-01		3R 0028	B2	D3 610	ケズリ	灰～褐	縞文	やや軟	406	354	48	146	101	20	20	4	凹		○歪む				○	1:3 2:3	3.02	補修布あり
124-01		3R 0029	B1	E3 608	縄叩き	灰	砂	やや軟	395	345	50	146		22	16	4	凹	S				○	○	1:3 1:8	2.46	
123-01		3R 0030	B2	E3 610	縄叩き →ナデ	灰		硬	404	360	44	136	91	18	13	3	凹		○			○	○	3:2 9:1	2.44	
		3R 0031	B1	E3 610	縄叩き →ナデ	白		軟			41	128	88	16	16	2	凹	Z				○	○	2:3 3:2	1.52	
101-01		3R 0032	B2	A2 608	ケズリ	橙	縞文	やや軟	406	342	66	136	100	13～16	13	4	凹	S	○	○12.0cm			○	1:1 截面のみ	1.72	
108-01		3R 0033	B2	B3 604	縄叩き	灰		やや軟	412	352	57	145	95	19	18	4		Z		○13.0cm			○	1:9	1.91	凸面剥離
107-01		3R 0034	B2	B3 604	縄叩き	白		やや軟	404	357	49	132	95	11～17	15	4	凹	S	○	○折返以下 15.5cm		○	○	1:9 4:1	1.92	
121-01		3R 0035	B1	D3 609	縄叩き	灰		硬	384	323	58	128	89	21	16	4	凹	Z	○				○	1:3 截面のみ	1.85	
120-01		3R 0036	B2	D3 609	ケズリ	橙		硬		352		150		21	15	3	凹	Z	○			○		3:2 1:1	2.30	
137-01		3R 0037	B1	F4 609	縄叩き	灰		軟			50	128	89	17	13	2			○			○	○	1:3	1.04	補修布あり
114-01		3R 0038	B1	C3 609	縄叩き	灰		硬			54	140	96	21	16	2	凹						○	3:2	1.35	補修布あり
112-01		3R 0039	B1	C3 609	縄叩き	灰	縞文	やや軟			60	137	97	18	16	2		S	○	○6.0cm			○	1:3 1:4	1.72	
113-01		3R 0040	B2	C3 609	縄叩き	灰～白	縞文	軟	405	348	57	142	94	18	16	3	凹					○	○	1:8	2.01	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	2次成形凸	色調	胎土	焼成	全長(mm)	筒部長(mm)	玉縁部長(mm)	筒部幅(mm)	玉縁部幅(mm)	筒部厚(mm)	玉縁部厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	分割突帯	ダーツ痕	布綴合痕	布端合痕	玉縁折返	破面:截面	重量(kg)	備考
116-01		3R 0041	B2	C3 610	ケズリ	黒	縞文	やや軟		346		134	93	15～20	11	3	凹					○	○	1:8 2:3	1.86	
		3R 0042	B1	C3 610	ケズリ	白	縞文	軟	393	340	51			15	16	3	凹		○			○	○	3:2	1.66	
115-01		3R 0043	B1	C2 610	縄叩き	灰	縞文	硬	384	328	54	140	92	22	16	4	凹	S	○歪む		○		○	2:3	2.11	補修布あり
099-01	38	3R 0044	B1	A2 610	縄叩き→ケズリ	黒		硬				136	94	20	12	2					○			1:3	1.44	
098-01		3R 0045	B3	A2 610	ケズリ	白	縞文	硬			37	120	86	15	13	2	凹	Z				○	○	3:2	1.04	
103-01		3R 0046	B1	B2 609	ケズリ	白	縞文	硬			55	130	94	19	16	2		S		○8.0cm			○	1:2	1.06	
		3R 0047	B1	B2 609	縄叩き→ケズリ	灰白	縞文	軟	385	325	60			25	14	2	凹						○	1:2	1.63	
105-01		3R 0048	B2	B2 609	ケズリ	黒	縞文	やや軟	409	351	58	146	94	20	17	3	凹		○	○10.0cm		○	○	1:1 1:2	1.54	補修布あり
		3R 0049	B1	B3 604	縄叩き	白		硬			66	138	103	18	17	2	凹	Z					○	3:2	0.94	
106-01		3R 0050	B1	B3 608	縄叩き→ケズリ	灰		硬			59	134	98	16	16	2	凹	Z	○	○13.5cm			○	1:1 3:1	1.66	
		3R 0051	B3	B3 608	ケズリ	白		軟			54	125	90	16	10	2	凹	Z				○	○	1:2	1.23	
		3R 0052	B3	F4 604	ケズリ	灰		やや軟			55	128	90	13	11	2	凹		○		○		○	1:8	0.70	
156-01		3R 0053	B1	B3 608	横ケズリ縄叩き	灰		硬			44	130	92	17	15	2	凹			○10.5cm		○	○	3:1	0.75	
157-01		3R 0054	B3	B3 608	ケズリ	灰		硬			48	120	91	14	14	2		S		○ 9.9cm			○	1:1 1:3	0.93	
159-01		3R 0055	B2	C3 517	ケズリ	褐	縞文	硬		354		136		18	15	2	凹	Z	○			○	○	1:3	1.81	補修布あり
160-01		3R 0056	A1	E3 608	横ケズリ縄叩き	灰	砂	硬	374	324	50	170		18	13	3	凹	S		○ 6.1cm		○		1:3	2.50	
		3R 0057	B2	C2 610	横ケズリ縄叩き	灰	精緻	硬	408	357	47	127	90	19	15	4	凹	Z		○11.0cm			○	1:1	1.81	
		3R 0058	A1	C3 610	横ケズリ	灰	砂	硬		331		166	121	23	12	4			○			○		3:1	2.25	

平瓦　計測表

2F:SK02平瓦　3F:SK03平瓦

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
		HF 0001	B1	B3 512	一枚作り	縄叩き		白～黄	縞文	硬		262		19		1	凹				左凹		1.62	表土
		HF 0002	B1	B3 512	〃	〃		白	縞文	やや軟	379			24	19	2	凸						1.66	表土
001-01		HF 0003	A3	D5 514	〃	〃	布目残る	灰		硬			285		18	2	凸凹			狭凹	左右凹		2.40	表土

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
		2F 0001	B3	D5 608	一枚作り	縄叩き	ナデ	灰		硬			188		18	2	凸							
		2F 0002	B3	E5 608	〃	〃		黒		軟			198		18	2	凸			狭凹				
015-01		2F 0003	B3	B5 602	〃	〃	布目残る	黒		硬			208		18	2	凸				凹		1.35	
		2F 0004	B3	D5 517	〃	〃	布目残る	黒		軟			210		18	2			○	狭凹			1.10	
		2F 0005	B1	D5 517	〃	〃	布目残る	黒	縞文	軟			220		23	2	凹				左右凹		2.30	
		2F 0006	B3	B5 602	〃	〃	布目残る	黒	縞文	軟			210		17	2	凸				凹		2.10	
		2F 0007	B1	D5 603	〃	〃		灰		軟		247		25		2	凸			広凹			2.10	
		2F 0008	B3	F5 602	〃	〃		黒		硬			195		17	2					凹		1.50	
		2F 0009	B3	E5 517	〃	〃		灰		軟			189		17	2	凸	Z					1.85	
		2F 0010	B3	F5 602	〃	〃		暗褐		硬			208		18	2	凸					狭凸	1.40	
		2F 0011	B1	E5 608	〃	〃		白	縞文	軟		255		20		2	凸			広凹			1.55	
		2F 0012	B3	E5 608	〃	〃		灰	縞文	硬			208		18	1	凸						1.55	
009-01		2F 0013	B1	G6 603	〃	〃		灰		硬	362	277	228	26	23	3	凹	Z			右凹		3.14	
008-01	7	2F 0014	B1	E5 608	〃	〃		灰		硬	362	252	187	20	20	3	凸	S		狭凹		狭凸左 広凸左も	3.04	
003-01	8	2F 0015	B3	A5 602	〃	〃		白		硬	336	248	247	16	18	2	凸		○		左右凹		2.34	
002-01		2F 0016	B1	A5 602	〃	〃	布目残る	灰		硬		268		22		2	凸				左凹		2.14	
005-01		2F 0017	B1	A5 603	〃	〃		灰	縞文	軟	359	239	192	20	20	2			○				2.46	
004-01		2F 0018	B1	A5 603	〃	〃		白	縞文	軟	372			23	20	2	凸		○				2.15	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
007-01		2F 0019	B3	D5 608	一枚作り	縄叩き	布目残る	橙	縞文	硬			230		12	2	凸				右凹		1.70	
		2F 0020	B1	C5 603	〃	〃	布目残る	灰	縞文	硬			189		23	2							1.50	
006-01		2F 0021	A1	C5 603	〃	〃	全面布目残る	灰	縞文	やや軟	397			25	23	2	凸凹	S			左凹		3.15	
147-01		2F 0022	B1	B5 604	〃	〃		橙～黒		硬		246		20		2	凸凹			広凸		広凸左	2.10	広端藁スサ痕アリ
148-01		2F 0023	B1	C5 604	〃	〃		灰～白	縞文	硬		250		24		2	凸				右凹	広凸左右	2.15	広端藁スサ痕アリ
		2F 0024	B1	C5 604	〃	〃		灰	縞文	硬			223		24	2					右凹	狭凸左	1.90	
		2F 0025	B1	C5 604	〃	〃		灰	縞文	やや軟			226		22	2	凸			狭凸凹	左右凹	狭凸左	1.46	
		2F 0026	B3	C5 604	〃	〃		灰～白	縞文	やや軟			234		18	2	凸凹			狭凹	左右凹		1.24	
		2F 0027	B1	E5 604	〃	〃	布目残る	灰	縞文	硬			212		23	2	凸凹			狭凹	左凹	狭凸右	1.75	
		2F 0028	B1	E5 608	〃	〃		灰	縞文	硬		264		19		2	凸				左凹	広凸右	1.99	
149-01		2F 0029	B1	E5 608	〃	〃		灰	縞文	やや軟		248		19		2					左右凹	広狭凸右	1.72	凹左右両端を面取
		2F 0030	B3	B5 602	〃	〃	布目残る	灰	砂	硬			210		15	2	凸			狭凹	左凹		1.95	
150-01		2F 0031	B1	B6 608	〃	〃	布目残る	黒～灰	砂 縞文	硬		250		19		2	凸				左右凹	広凸左右	2.10	
		2F 0032	B1	E5 517	〃	〃		橙	砂	硬	373		197	22	16	3	凸			狭凹	左凹	広狭凸左右	3.10	広端藁スサ痕あり
		2F 0033	A1	F5 603	〃	〃	布目残る	灰		並	424			23	25	2	凸			狭凹			2.42	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
		3F 0001	B1	C3 609	一枚作り	縄叩き	布目残る	灰		硬	372	240		22	20	3			○	狭凹	左凹		3.80	
090-01		3F 0002	B1	F4 609	〃	〃		灰		硬	363	250	211	22	21	4	凸			広狭凹	左右凹		3.76	
091-01		3F 0003	B1	F4 609	〃	〃		灰	縞文	硬	363	250		23	18	3	凸			狭凹			3.04	
094-01		3F 0004	B1	F4 609	〃	〃	布目残る	灰		硬	364		202	25	20	3	凸			狭凹	右凹		3.05	
095-01		3F 0005	B3	F4 609	〃	〃		灰		硬	355	249	206	22	20	4	凸			狭凹	左凹		3.16	
096-01	22	3F 0006	B2	F4 609	〃	〃		白	縞文	硬	352		216	30	31	3	凸			広凹	右凸		4.40	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
081-01		3F 0007	B2	D3 609	一枚作り	縄叩き	布目残る	黒		硬	377	250		28	22	3	凸		○	狭凹	右凹	広狭凸 左右	4.18	
078-01		3F 0008	B3	D3 609	〃	〃		白		軟	353			19	19	2	凸			狭凹	左右凹		2.50	
077-01	20	3F 0010	A2	D3 609	〃	〃	布目残る	橙	縞文	軟	382			25	20	4			○ヨコ		右凹		4.60	
076-01	19	3F 0011	B3	D3 609	〃	〃		白	縞文	軟	384	240	194	15	15	4	凸				左右凹		2.10	
042-01	18	3F 0012	B1	A2 609	〃	〃		灰		硬	342	243	224	23	17	4	凸	Z					3.74	布端紐狭端部あり
041-01		3F 0013	B3	A2 609	〃	〃		灰		硬	360	250	193	18	18	2	凸						2.67	
044-01	16	3F 0014	A1	A2 610	〃	〃	布目残る	白～黄		軟	382	258	224	17	20	4	凹		○	狭凹			3.76	
		3F 0016	B1	A2 610	〃	〃	布目残る	黒～白		軟		240		22		1	凸凹	S			左凸 右凹		1.40	
045-01		3F 0017	B1	A2 610	〃	〃		灰～白	縞文	硬	358	258		24	19	3	凸			狭凹			2.46	
047-01		3F 0018	B3	A2 610	〃	〃		白		軟	355		200	18	15	3	凸			狭凹	左右凹		1.70	
037-01		3F 0019	B1	A2 608	〃	〃	布目残る	橙	縞文	やや軟			223		20	2	凸	S		狭凹	左右凹		2.65	1/2個体
039-01		3F 0020	B3	A2 609	〃	〃		灰～白	縞文	硬	350	240	202	18	16	4	凸				左凹		2.55	
038-01	17	3F 0021	A3	A2 608	〃	〃		灰～白	砂	硬	404	279		20	17	3	凸						4.04	
051-01		3F 0022	A3	B2 610	〃	〃	布目残る	灰～白		硬	419		212	18	18	2	凸				左右凹		3.04	
052-01		3F 0023	A1	B3 608	〃	〃	布目残る	灰		軟		284		21		2	凸凹				左右凹		3.14	1/2個体
065-01		3F 0024	B1	C3 609	〃	〃		灰		硬		248		20		2	凸				左右凹		2.08	1/2個体
069-01	21	3F 0025	A2	D3 608	〃	〃	布目残る	暗褐	砂	硬	387	320		27	21	3	凸	S		広凹	左凹		4.94	
071-01		3F 0026	A2	D3 608	〃	〃		灰～褐	縞文	やや軟	400			27	27	2	凸凹			狭凹	左凹		3.60	1/2個体
070-01		3F 0027	B3	D3 609	〃	〃		灰	砂	硬	370			17	16	2	凸			狭凹			1.90	1/2個体
072-01		3F 0028	B1	D3 609	〃	〃		灰	縞文	硬	370		213	22	18	2	凸				左凹		2.60	1/2個体
073-01		3F 0029	B3	D3 609	〃	〃		灰		軟		258		17		2	凸				左凹 右凸		2.44	1/2個体
074-01		3F 0030	B1	D3 610	〃	〃	布目残る	灰		やや軟	370		204	26	20	3	凸凹				右凹		3.13	
075-01		3F 0031	B1	D3 609	〃	〃	布目残る	黒		硬			218		25	2	凸				左凹		3.15	

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
086-01	23	3F 0032	B1	E3 608	一枚作り	縄叩き		灰～褐		硬	363	256	214	25	22	4					右凹		4.27	
084-01		3F 0033	B1	E3 609	〃	〃		暗褐～橙		硬		262		19		2	凸				左右凹		2.30	1/2個体
085-01		3F 0034	B1	E3 609	〃	〃		灰	砂	硬		257		22		2	凸						2.06	
087-01		3F 0035	B1	E3 610	〃	〃		灰	縞文	やや軟	350	247	215	23	23	4	凸			広凹			3.31	
093-01		3F 0036	B1	F4 609	〃	〃		灰		硬	352	244		25		2	凸			広狭凹	左右凹		2.42	
092-01		3F 0037	B1	F4 609	〃	〃		灰	縞文	やや軟	378		194	22	19	3				広凸	左右凹		2.51	
		3F 0038	B3	A2 610	〃	〃		灰～白		硬		248		15		2	凸				右凹		1.56	1/2個体
		3F 0039	B1	A2 610	〃	〃		褐	縞文	硬		252		25		2	凸				左凹		2.14	1/2個体
046-01		3F 0040	B1	A2 610	〃	〃		灰～褐	縞文	硬	355	240	180	27	17	3	凸						3.16	
		3F 0041	B3	A2 609	〃	〃		灰		硬			205		15	2	凸			狭凹	左凹		1.10	1/4個体
		3F 0042	B1	A2 609	〃	〃		橙	砂	硬			215		20	2	凸			狭凹			2.01	1/2個体
040-01		3F 0043	B1	A2 609	〃	〃	布目残る	灰～白		硬		247		22		2	凸		○タテヨコ		左凹		2.70	補修布痕?
055-01		3F 0044	B1	C3 604	〃	〃		橙		硬	376	262	193	24	20	4	凸			狭凹	左凹		3.02	
056-01		3F 0045	B3	C3 609	〃	〃		灰～白		硬			214		18	2	凸			狭凹	左右凹		2.14	1/4個体
057-01		3F 0046	B1	C3 609	〃	〃		灰		やや軟	358	239	211	24	17	4	凹			狭凹	左右凹		2.55	
058-01		3F 0047	A1	C3 609	〃	〃		灰		硬		300		24		2	凸				左右凹	広狭凸左右	3.11	
062-01		3F 0048	A3	C3 609	〃	〃	布目残る	白		硬	400	267		19	15	2	凸				左右凹		3.38	広端藁スサ痕あり
064-01		3F 0049	B2	C3 609	〃	〃	全面布目残る	灰～白		硬	362			28	22	2	凸			広凸			2.30	1/2個体
063-01		3F 0050	B3	C3 609	〃	〃		灰	縞文	硬	362			17	17	2	凸			狭凹	右凹		1.70	1/2個体
060-01		3F 0051	B3	C3 609	〃	〃		灰		硬			207		17	2	凸				左右凹		2.74	
061-01		3F 0052	B3	C3 609	〃	〃		白	縞文	やや軟	360			17	13	2	凸			狭凹	左凹		1.65	広端藁スサ痕あり
059-01		3F 0053	B3	C3 610	〃	〃		灰～橙	縞文	硬	368			17	16	2	凸			狭凹			1.96	広端藁スサ痕あり
068-01		3F 0054	B1	D3 604	〃	〃		白	縞文	軟	378	259	210	20	21	4	凸			狭凹	左右凹		2.80	広端藁スサ痕あり

R-	報告書番号	整理 No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
067-01		3F 0055	A1	D3 604	一枚作り	縄叩き		灰～白	縞文	やや軟	388	267	240	23	19	3	凸		○タテ	狭凹	左凹		3.28	
		3F 0056	B3	D3 604	〃	〃		白	縞文	やや軟		245		18		2	凸				左右凹		1.26	1/2個体
080-01		3F 0057	B2	D3 609	〃	〃		橙	縞文	硬	372	257	228	26	28	3	凸			広狭凹	左右凹		3.48	
083-01		3F 0058	B1	D3 610	〃	〃		灰～白	縞文	硬	362	266	198	20	18	4	凸凹			狭凹	左右凹	広凸左右	3.11	広端藁スサ痕あり
082-01		3F 0059	B1	D3 610	〃	〃		灰	縞文	硬	370	253	217	20	23	3	凸			狭凹	左右凹		3.06	広端藁スサ痕あり
066-01		3F 0060	B1	C3 609	〃	〃		橙		硬		256		23		2	凸				左右凹		1.52	1/3個体
		3F 0061	A1	A2 608	〃	〃		橙	砂	硬			280		25	2				狭凹	左凹		2.46	
		3F 0062	B1	B2 610	〃	〃		黒	縞文	軟	366			20	25	2	凸	広凸左		広狭凹			2.06	
050-01		3F 0063	B1	B2 610	〃	〃		灰	縞文	硬		250		23		2	凸					広凸左右	2.09	広端藁スサ痕あり
049-01		3F 0064	B3	B3 604	〃	〃		褐	縞文	硬		248		16		2	凸					広凸左右	2.06	広端藁スサ痕あり
048-01		3F 0065	B3	B3 604	〃	〃		橙	縞文	硬			192		15	2				狭凹	左右凹		1.46	
053-01		3F 0066	B1	C2 610	〃	〃	布目残る	灰		硬			214		19	2	凸			狭凹	左右凹	広狭凸右	2.14	
054-01		3F 0067	B1	C2 610	〃	〃	布目残る	褐	縞文	やや軟	369			24	20	2	凸			狭凹		広凸左右	1.84	広端藁スサ痕あり
088-01		3F 0068	B1	E4 604	〃	〃		橙	縞文	硬	357			23	23	2	凸			広狭凹	左右凹		2.93	広端藁スサ痕あり
089-01		3F 0069	B3	E4 604	〃	〃		黒		軟	351	236	207	14	13	3	凸			狭凹	左右凹		1.96	
		3F 0070	B1	C3 517	〃	〃		橙～灰		硬	362			21	23	2	凸			狭凹		広凸左右	1.95	
		3F 0071	B1	C3 517	〃	〃		橙	縞文	硬			228	26	21	2	凸			狭凹			2.70	
158-01		3F 0072	B1	E4 517	〃	〃		橙	縞文	硬	376		196	20	20	3	凸			狭凹	左右凹		2.60	
		3F 0073	B3	H4 617	〃	〃	布目残る	灰～白	精緻	やや軟	354	234	208	19	12	4	凸				左右凹		2.65	

隅切瓦　計測表

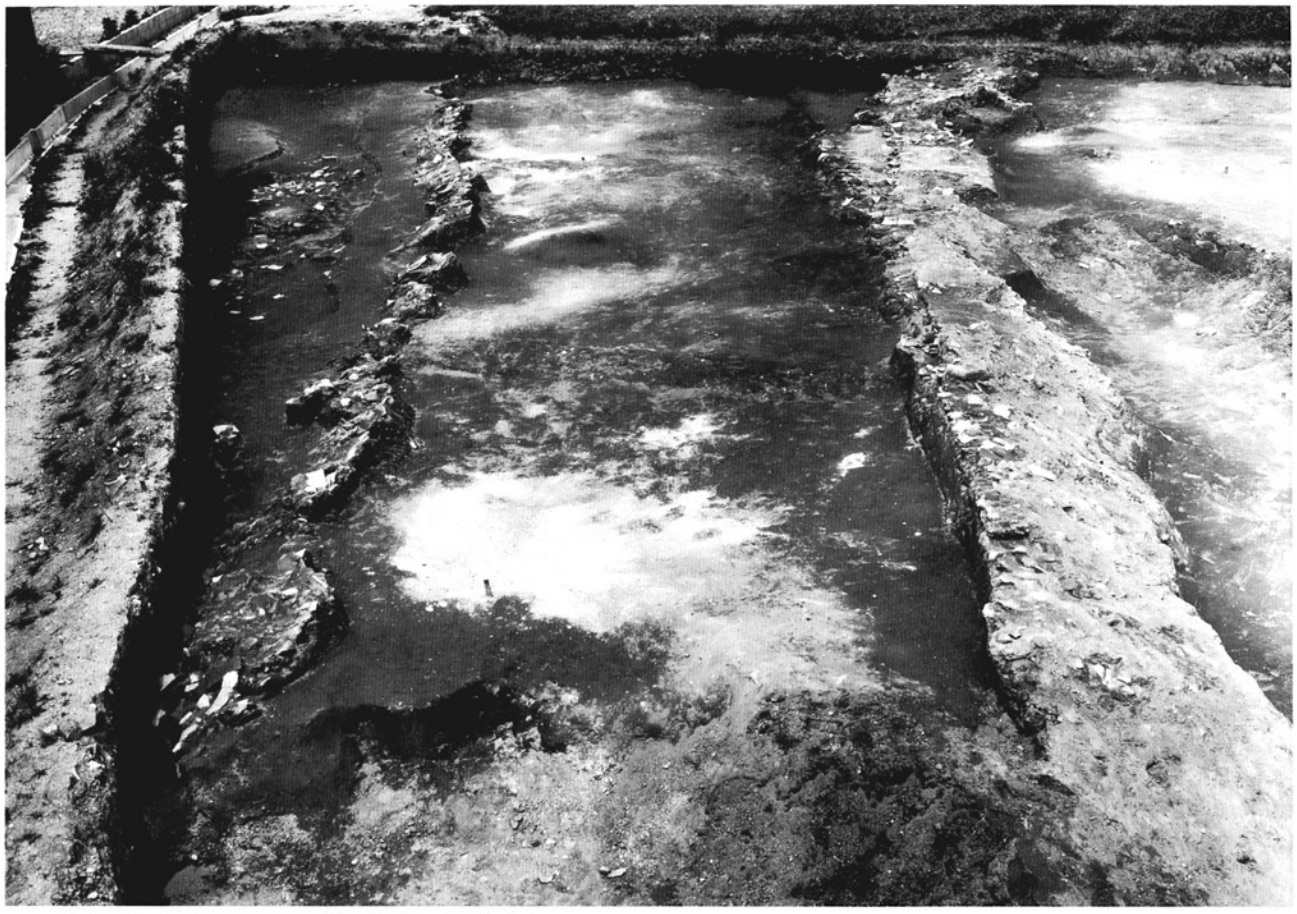
A:直　B:曲　a:左下　b:右下　c:左上　d:右上

R-	報告書番号	整理	No.	類別	地区日付	1次成形	2次成形凸	2次成形・調整凹	色調	胎土	焼成	全長(mm)	広端幅(mm)	狭端幅(mm)	広端厚(mm)	狭端厚(mm)	隅数	糸切痕	粘土接合痕	布綴合痕	面取端部	面取側面	端部指痕	重量(kg)	備考
		1S	0001	Ac	B3 520	一枚作り	縄叩き		灰	精緻	軟					17	1							0.12	
		2S	0002	Ab	A5 603	〃	〃		灰	砂	軟				18		1							0.09	
161-01		2S	0003	Bd	B5 602	〃	〃	布目残る	白～灰	精緻	硬					21	1					右凹		0.96	
		2S	0004	Aa	B5 601	〃	〃		灰	砂	硬				19		1							0.06	
		2S	0005	Ac	B5 602	〃	〃		灰	砂	軟					22	1					左凹		0.42	
		2S	0006	Aa	D5 602	〃	〃		灰	精緻	硬				19		1					左凹		0.10	
		2S	0007	Ad	E5 604	〃	〃		灰	砂	軟					15	1					左凹		0.11	
		3S	0008	Ad	B2 609	〃	〃	布目残る	灰	砂	硬					16	1	凸						0.74	
		3S	0009	Ab	C3 610	〃	〃		灰	精緻	軟				21		1							0.20	
165-03	27	3S	0010	Ad	C3 609	〃	〃		白～灰	精緻	軟					18	1							0.34	
162-01	29	3S	0011	Bb	D3 604	〃	〃	布目残る	白～黄	精緻	軟		200		23		2	凸				左凹		1.89	
		3S	0012	Ad	D3 609	〃	〃	布目残る	灰	砂	硬					18	1	凸凹				右凹		0.54	
		3S	0013	Aa	D3 609	〃	〃	布目残る	灰	砂	硬				21		1	凸					広端	1.01	
165-02		3S	0014	Aa	E3 609	〃	〃	布目残る	灰	精緻	硬				19		1	凸						0.22	
164-01	26	3S	0015	Ac	E3 609	〃	〃	布目残る	灰	縞文	硬	380			26	17	3				狭凹	左凹	広狭	2.01	
		3S	0016	Ab	F4 617	〃	〃	布目残る	灰	縞文	硬				16		1					右凹		0.16	
		3S	0017	Ba	F4 617	〃	〃	布目残る	灰	精緻	軟				20		1							0.24	
165-01		3S	0018	Bd	F4 617	〃	〃	布目残る	灰	縞文	硬					18	1	凸			狭凹			0.35	
163-01	28	3S	0019	Bb	F4 617	〃	〃		灰	精緻	硬				22		2						広右	0.84	
		3S	0020	Bb	F4 617	〃	〃		白	縞文	硬				18		1	凸						0.24	
079-01	25	3S	0025	Aa	D3 609	〃	〃	布目残る	白～黄	縞文	軟	371		208	24	25	5				狭凹	左凹		3.60	
043-01	24	3S	0026	Aa	A2 609	〃	〃	布目残る	白		軟	366	250	218	20	17	5	凹			狭凸	左右凹		2.70	
		HS	0021	Ab	C5 601	〃	〃		灰	砂	硬				22		1						広	0.19	包含層
		HS	0022	Bd	F5 426	〃	〃		灰	精緻	硬					21	1						狭	0.41	包含層
		HS	0023	Bc	B5 513	〃	〃		灰	砂	軟					22	1	凸						0.16	表土
		HS	0024	Ad	B5 513	〃	〃	布目残る	灰	精緻	軟					22	1	凸凹					広	0.56	表土

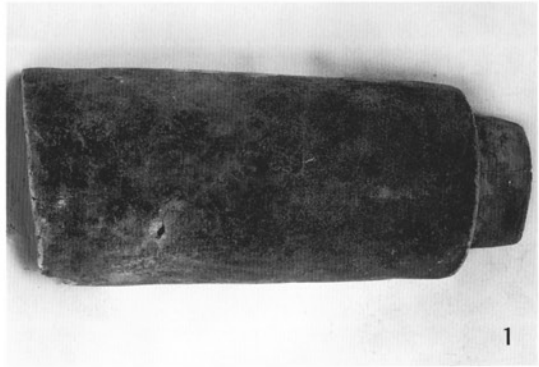
図　　版

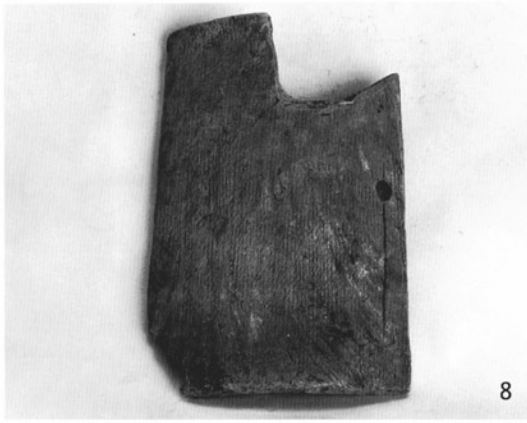
PL1

調査区全景（南から）

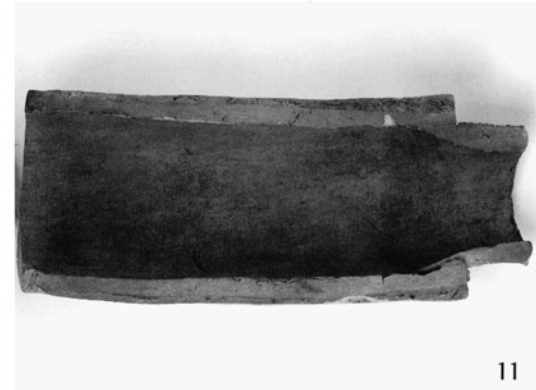


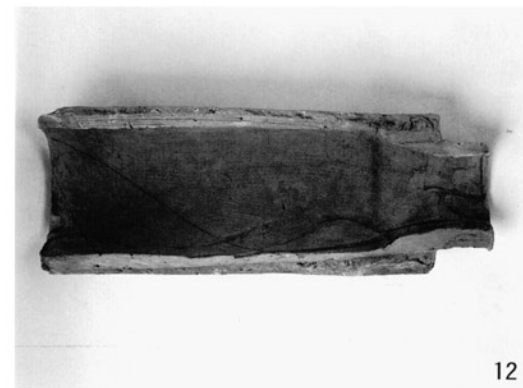
ＳＫ02・ＳＫ03瓦溜まり検出状況（南から）



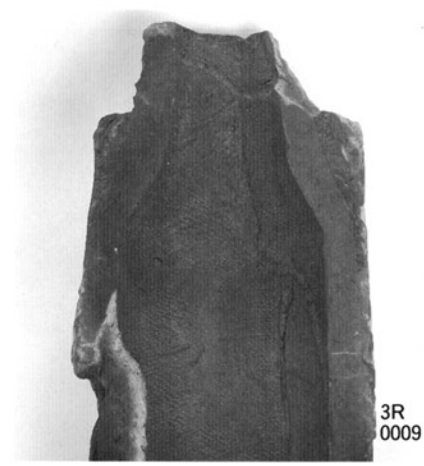


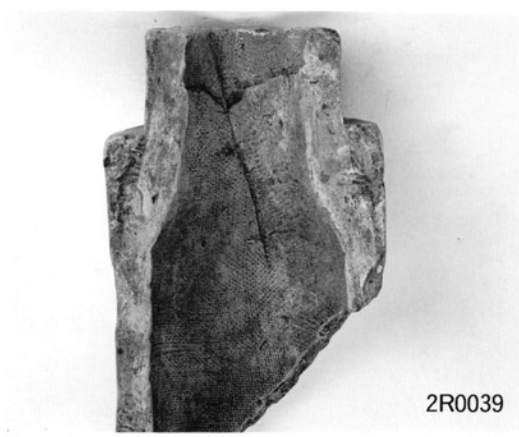
出土遺物（１）





出土遺物（２）





出土遺物（３）

報　告　書　抄　録

ふりがな	かんのんおきいせきはっくつちょうさほうこく
書名	観音沖遺跡発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	２０６
編著者名	大川　操
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515－0325　三重県多気郡明和町竹川503番地　　℡ ０５９６－５２－１７３２
発行年月日	西暦　２０００年　３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
観音沖遺跡（かんのんおきいせき）	三重県鈴鹿郡（みえけんすずかぐん） 関町新所町字（せきちょうしんじょまちあざ） 観音沖（かんのんおき）	24361		34° 51′ 00″	136° 22′ 58″	19990425 ～ 19990625	400m²	畜産経営環境整備事業 （観音沖地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
観音沖遺跡	生産遺跡	奈良時代・江戸時代	瓦溜まり、ピット	布目瓦（平瓦・丸瓦・軒平瓦） 近世瓦	瓦窯の灰原から掻き出された処分瓦を投棄したものとみられる。

平成12(2000)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年10月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告　２０６

観音沖遺跡発掘調査報告

－三重県鈴鹿郡関町新所町－

２０００年３月

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター

印　　刷　オリエンタル印刷株式会社